

2025 年度 （公社）新潟県栄養士会 第 2 回理事会 次第

日時：2025 年 7 月 17 日（木）18:00～20:30

会場：Zoom

URL: <https://zoom.us/j/95246318724?pwd=fNvp588ZldktMggQ43gj7tUQfQd4El.1>

ミーティング ID: 952 4631 8724 パスコード: 8u4DQx

1	会長挨拶		斎藤会長
2	新潟県からの情報提供		
	新潟県福祉保健部健康づくり支援課 健康立県推進班	政策企画員	中川 圭子 氏
3	審議		
	(1) 定時総会における発言通告書の回答について	p 3	山田専務理事
	(2) 役員改選に伴う役員選考委員について	p 5	石月事務局長
	(3) 旅費について	p 6	石月事務局長
	(4) 新潟県栄養士会への「寄付金」を「特定費用準備資金」として利用する件について	p 7	斎藤会長
	(5) 2026 年度の全研修計画作成の進め方について	p 8	村山副会長
4	報告		
	(1) 80 周年記念事業振り返りについて	p 9～	山田専務理事
	(2) 外部理事・監事の報酬・定款変更について	p 17	山田専務理事
	(3) 2025 度の会員数について	p 18～	石月事務局長
	(4) JDA-DAT スタッフ教育研修について	p 21	土田理事
	(5) 勤者支援事業部と地域活動事業部の統合について	p 22	山川部長
	(6) 各業務執行部の経過報告 ・栄養ケア・ステーション部 ・広報・情報部 ・研修部	p 22～	久志田部長 山川部長 斉藤部長
	(7) 表彰受賞者について	p 25	山田専務理事
	(8) 村上支部_助成金応募・獲得について	p 26～	北林理事
	(9) 日栄総会について	p 31～	斎藤会長
	(10) 2024 年度日当旅費の入金遅れについて	p 34	石月事務局長
	(11) その他		
5	その他		
	次回会議日程 ・常任理事会 2025 年 10 月 9 日（木） 18:00～20:30 Zoom ・理事会 2025 年 10 月 18 日（土）13:00～16:30 Zoom		山田専務理事
6	閉会の挨拶		村山副会長

* 理事会終了後、日本栄養士連盟新潟県支部より連絡あり

理事会参加予定者名簿

			氏名	(役職)	
理 事	代表理事	会長	斎藤 トシ子		
		副会長	村山 稔子		
		副会長	高橋 洋平		
	専務理事		山田 祥子		
	支部理事	村上	北林 紘	支部長	
		新発田	伊藤 涼子	支部長	
		新潟市	治田 麻理子	支部長	
			石墨 清美江	部員	
			竹内 瑞希	部員	
			久志田 順子	部員	
		佐渡	佐々木 佳子	支部長	
		三条	内田 悠香	支部長	
		長岡	中俣 裕子	支部長	
			山岸 美恵子	副支部長	
		柏崎	金子 幸子	支部長	
		魚沼	鶴川 一寛	支部長	
		十日町	村山 千晶	支部長	
		上越	内山 智子	支部長	
		職域事業部理事	公衆衛生	土田 直美	事業部長
			研究・教育	堀川 千嘉	事業部長
	学校健康教育		丸山 朝美	事業部長	
	医療		小林 昌子	事業部長	
	勤労者支援		渡辺 絵里子	事業部長	
	福祉		斉藤 幸子	事業部長	
	地域活動		山川 琴栄	事業部長	
顧問		入山 八江			
顧問		折居 千恵子			
監事		角谷 ヒロ子			
監事		大平 真由美			
事務局		石月 公美子	事務局長		

2025 年度定時総会における発言通告書の回答について

質問 意見 要望	事項	内容	回答																																																																																							
意見 要望	会費について	・ 会員増やすためにも会費がもう少し安くなると思います。高くて続けられないという若い方の声を聞く	表 1 主な医療職種の会員会費など																																																																																							
			<table><tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">入会時 支払 合計</th><th colspan="3">日本●●会</th><th colspan="3">新潟県●●会</th><th>県の合計額</th><th rowspan="2"></th></tr><tr><th>入会金</th><th>年会費</th><th>会員概数</th><th>入会金</th><th>年会費</th><th>会員概数</th><th>年会費のみ</th></tr><tr><td>管理栄養士</td><td>19,000</td><td></td><td>6,500</td><td>42,000</td><td>1,000</td><td>11,500</td><td>1,100</td><td>12,650,000</td><td>+ 入会金</td></tr><tr><td>栄養士</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>理学療法士</td><td>20,000</td><td>5,000</td><td>5,000</td><td>140,000</td><td></td><td>10,000</td><td>1,600</td><td>16,000,000</td><td></td></tr><tr><td>作業療法士</td><td>25,000</td><td></td><td>15,000</td><td>60,000</td><td></td><td>10,000</td><td>1,000</td><td>10,000,000</td><td></td></tr><tr><td>言語聴覚士</td><td>12,000</td><td></td><td></td><td>21,000</td><td>2,000</td><td>10,000</td><td>380</td><td>3,800,000</td><td>+ 入会金</td></tr><tr><td>看護師</td><td>22,500</td><td></td><td>5,000</td><td>760,000</td><td>10,000</td><td>7,500</td><td>16,100</td><td>120,750,000</td><td>+ 入会金</td></tr><tr><td>歯科衛生士</td><td>16,000</td><td>2,000</td><td>7,000</td><td>21,000</td><td></td><td>7,000</td><td>1,260</td><td>8,820,000</td><td></td></tr></table>		入会時 支払 合計	日本●●会			新潟県●●会			県の合計額		入会金	年会費	会員概数	入会金	年会費	会員概数	年会費のみ	管理栄養士	19,000		6,500	42,000	1,000	11,500	1,100	12,650,000	+ 入会金	栄養士										理学療法士	20,000	5,000	5,000	140,000		10,000	1,600	16,000,000		作業療法士	25,000		15,000	60,000		10,000	1,000	10,000,000		言語聴覚士	12,000			21,000	2,000	10,000	380	3,800,000	+ 入会金	看護師	22,500		5,000	760,000	10,000	7,500	16,100	120,750,000	+ 入会金	歯科衛生士	16,000	2,000	7,000	21,000		7,000	1,260	8,820,000	
						入会時 支払 合計	日本●●会			新潟県●●会				県の合計額																																																																												
				入会金	年会費		会員概数	入会金	年会費	会員概数	年会費のみ																																																																															
			管理栄養士	19,000		6,500	42,000	1,000	11,500	1,100	12,650,000	+ 入会金																																																																														
			栄養士																																																																																							
			理学療法士	20,000	5,000	5,000	140,000		10,000	1,600	16,000,000																																																																															
			作業療法士	25,000		15,000	60,000		10,000	1,000	10,000,000																																																																															
			言語聴覚士	12,000			21,000	2,000	10,000	380	3,800,000	+ 入会金																																																																														
			看護師	22,500		5,000	760,000	10,000	7,500	16,100	120,750,000	+ 入会金																																																																														
歯科衛生士	16,000	2,000	7,000	21,000		7,000	1,260	8,820,000																																																																																		
→ 栄養士・管理栄養士の会費は、他職種と同程度。																																																																																										
* 支払い合計額には「日本栄養士会」の会費も含まれている。																																																																																										
【会費一人当たりの使途】																																																																																										
日栄 36%、県栄 64%（内訳：公益事業_75%、法人会計_25%、）																																																																																										

表2 新潟県栄養士会と他県栄養士会（会員数の近い県）の比較

	年会費	入会金	会員概数	県の合計額
新潟県	11,500	1,000	1,100	12,650,000
長野県	10,500	1,000	1,300	13,650,000
千葉県	10,000	1,000	1,370	13,700,000
静岡県	9,500	1,000	1,370	13,015,000
広島県	13,000	1,000	1,330	17,290,000

→会員数が同じような県と比較すると、大きな差はない

【新潟県栄養士会の現状】

- ・費用総計の80%以上を公益事業（支部・職域活動費）の活動費に使用（新潟県民 約2,100,000人）。
- ・令和6年度、活動費用（支出額）は変わらないが、会員・賛助会員減による収入減により、昨年度との比較増減は、－81万円。
- ・活動費を捻出し組織力を強化するためには、会員増対策が必要。

【新潟県栄養士会における会費を上げない工夫】

- ・総会資料と機関紙を合併させ、印刷・郵送費用抑制。
- ・会議はZoomにて実施することで、交通費を節約。
- ・事業予算の綿密な精査実施。
- ・会員増対策委員会に於いて種々検討。

【結論】

会費減は、公益事業を減らすことにつながります。会費減の可否は、総会での審議が必要です。2025年度事業は会員1200人を目標に予算を作成。→当面の会費は従来通りにせざるをえない状況です。

*後日ホームページに掲載。（ホームページ>当会のご案内>情報公開>2025年度）

役員改選に伴う役員選考委員について

令和7年公益法人制度改正により、外部理事・外部監事の選任が公益認定の基準となります。

公益法人が適正に運営されるためには、理事会（理事）による職務執行の監督、監事による職務執行の監査等を通じたけん制機能が発揮されることが不可欠であり、理事会や監事はその機能を発揮する上で、法人外部からの視点を取り入れることが重要であるため。

（内閣府 公益認定等委員会事務局 公益法人行政担当室ページ
[外部理事・外部監事に関する特設ページ | 公益法人 Information](#) より）

また次年度（2026年度）は役員改選の年でもある。

定款＞役員選考規程＞役員選考委員会の構成等 第4条より

役員の選出に当たっては、役員選考委員会を設置し、次に掲げる委員で構成する。委員は会長が委嘱する。

- （1） 直前会長 1名
- （2） 理事会で選出された現任理事 2名
- （3） 現任代表理事が指名した正会員 2名

旅費等に関する規程変更について

旅費等に関する規程新（案）旧対照表

新（案）	旧	備考欄
第7条 (2) 前号で高速道路を利用した場合 <u>の高速道路料金は、出発地点より片道50 km以上の場合に限る。</u>	第7条 (2) 前号で高速道路を利用した場合 <u>には高速道路料金の実費額を支給する</u>	(変更)
第7条 (3) バス、高速バス <u>は、その実費額を支給する。</u> (4) <u>タクシーを利用した場合は、バスなどの公共交通機関の料金に換算し支給する。</u>	第7条 (3) バス、高速バス <u>及びタクシーを利用した場合には、その実費額を支給する。</u>	(変更) (新設)
<u>(5) 駐車場料金の支給は上限700円とする。</u>		(新設)
7条2 タクシーの利用は出張その他やむを得ない事情がある場合に限り、その料金の支給にあたっては領収書の提出を必要とする。 <u>3 やむを得ない事情とは、例えば交通機関が動いていない時間に会議が開催されるなどをいう。</u>	7条2 タクシーの利用は出張その他やむを得ない事情がある場合に限り、その料金の支給にあたっては領収書の提出を必要とする。	(新設)
第8条 (1) 旅客運賃は、ジェットフォイル及びフェリー（佐渡汽船の場合は2等）の運賃を支給する。 <u>(2) 基本片道ジェットフォイルまたは往復カーフェリーの利用が望ましく、ジェットフォイルの運賃は片道に限り支給する。</u> <u>(3) 自家用車のカーフェリー航送費用は支給しない。</u>	第8条 (1) 旅客運賃は、ジェットフォイル及びフェリー（佐渡汽船の場合は2等）の運賃を支給する。	(新設) (新設)

他）＊会議等で対面のほう（会場費＋旅費）が日当（500円）より安価の場合もあるため、経費節減のため安価な方を採択する等、経費削減のご協力をお願いしたい。

＊高速道路を使用した場合、料金レシートがある場合は写真を事務局へ送り、ETCの場合は旅費申請書にて申告。

新潟県栄養士会への「寄付金」を「特定費用準備資金」として利用する件について

1. 寄付元：新潟県栄養士会医療事業部 OB

2. 寄付金総額：2,267,707 円（35 年前に開催した食事療法学会の運営費の余剰金）

3. ご寄付の意向

2025 年 3 月 13 日（木）に、医療事業部 OB の稲村前顧問から、県栄養士会に上記寄付金のお申し出があり、その翌日（14 日・金）に、LINE で以下の連絡をいただきました。

斎藤会長、山田専務理事、阿部事務局長
の皆さま

おはようございます。

稲村です。

昨日は、年度末のご多用の中時間をいただき、ありがとうございました。

病栄協 OB からの寄付金について、いろいろ議論をさせていただいた結果、新事務所の移転費用の一助にすることで終わりました。

しかし、帰宅して熟考した結果、やはり、昨日、一番に提案させていただいた OB の望んでいた学術面での活用は、どんな形であれ外してはいけない…というところにたどり着きました。

そこで、下記の提案を最終提案とさせていただきたいと思います。

①100 万円を栄養士会の新事務所の移転費用の一助とする。

② 1,267,707 円は、学術面で活用し、管理栄養士、栄養士の資質の向上に役立てる。

以上を全権委任を受けて会議に望んだ稲村の最終提案とさせていただきたく、よろしく願いします。

4. 審議事項

いただいた寄付金は、医療事業部 OB の意向を受け、県栄の「特定費用準備資金」として、事務所移転費および学術的費用として、下記のように使用させていただきたい。

・事務所移転費：現在 500 万円を上限に積み立てている「特定費用準備資金」に、今回ご寄付いただいた 100 万円を追加する。

・学術的費用：学術事業部長、研究教育委員長等に、他の職能団体や関連学会の会員への学術支援の方法を調べていただき、県栄養士会の学術支援の目的、方法などを明記した計画書を作成し（下記参考表）、本年度中に特定費用準備資金として積み立てることに承認をいただく。

*新潟食生活学会の残金 70,006 円を追加する。

参考）定款＞特定費用準備資金等取扱規則＞第 2 章 第 5 条により下記要件を要す

特定費用準備金の名称 （貸借対照表科目名）	将来の特定の活動の名称	当外活動の内容	計画期間 （事業年度）	当該活動の実施予定期間	積み立て限度額の算定方法

1 背景

現在、新潟県栄養士会は、下記 1) ～7) の研修事業を実施し、企画内容が決まった時点で、関係者および会員等に、その都度、案内を发出しているが、受講者にとっては、早めに、一年間の研修内容がみえると参加予定を立てやすくなる可能性がある。さらに、研修内容の重複等を避け、受講者の増加を図るためにも、2026 年度以降は、全ての研修案を一度、お知らせいただき、関係者間で、相談・調整を図った上で、検討する方向で進めたいと考える。

2 2025 年度の研修事業

- 1) 生涯教育実務研修（6 回：6 月、7 月、8 月、9 月、10 月、11 月）
- 2) 栄養士研修会（栄養士大会）
- 3) 栄養 CS セミナー（6 回：5 月、7 月、8 月、9 月、10 月、1 月）
- 4) JDA-DAT スタッフ教育研修
- 5) JDA-DAT リーダー伝達講習会
- 6) 職域事業部研修会：公衆衛生、研究・教育、医療事業部、医療事業部精神分科会、 勤労者支援、福祉、地域活動
- 7) 在宅訪問栄養食事相談事業研修会

3 2026 年度研修計画作成の進め方

- 1) 研修内容のニーズの把握、県栄ならではの研修の特徴、やり方等を考える。
・新人会員、中堅会員、関係者等の研修ニーズ、前年度実施のアンケート調査等による研修ニーズ、社会背景（報酬改定、食事摂取基準、食品成分表等改定、各種ガイドライン等の作成・改定等）、地域課題等を把握し検討する。
- 2) 各担当者から研修案を、スプレットシート等で、知らせていただく（9 月中旬頃？）
※内容が重ならないように、特に生涯教育、栄養士大会、職域事業部研修会では、分野も含め調整を行うため、この段階では講師に依頼は行わない
- 3) 10 月理事会で、提案内容の共有を図り、意見をいただく
- 4) 意見をもとに、関係者（事務局・研修部中心に）で、調整・検討する
- 5) 調整検討した研修案を、理事にメール送信し、メール審議をする
（遅くても、2 月の理事会を目指し、決定する？）
- 6) 決定次第、一覧表を HP に掲載するとともに、会員、関係者に周知する

*スプレットシートのイメージ

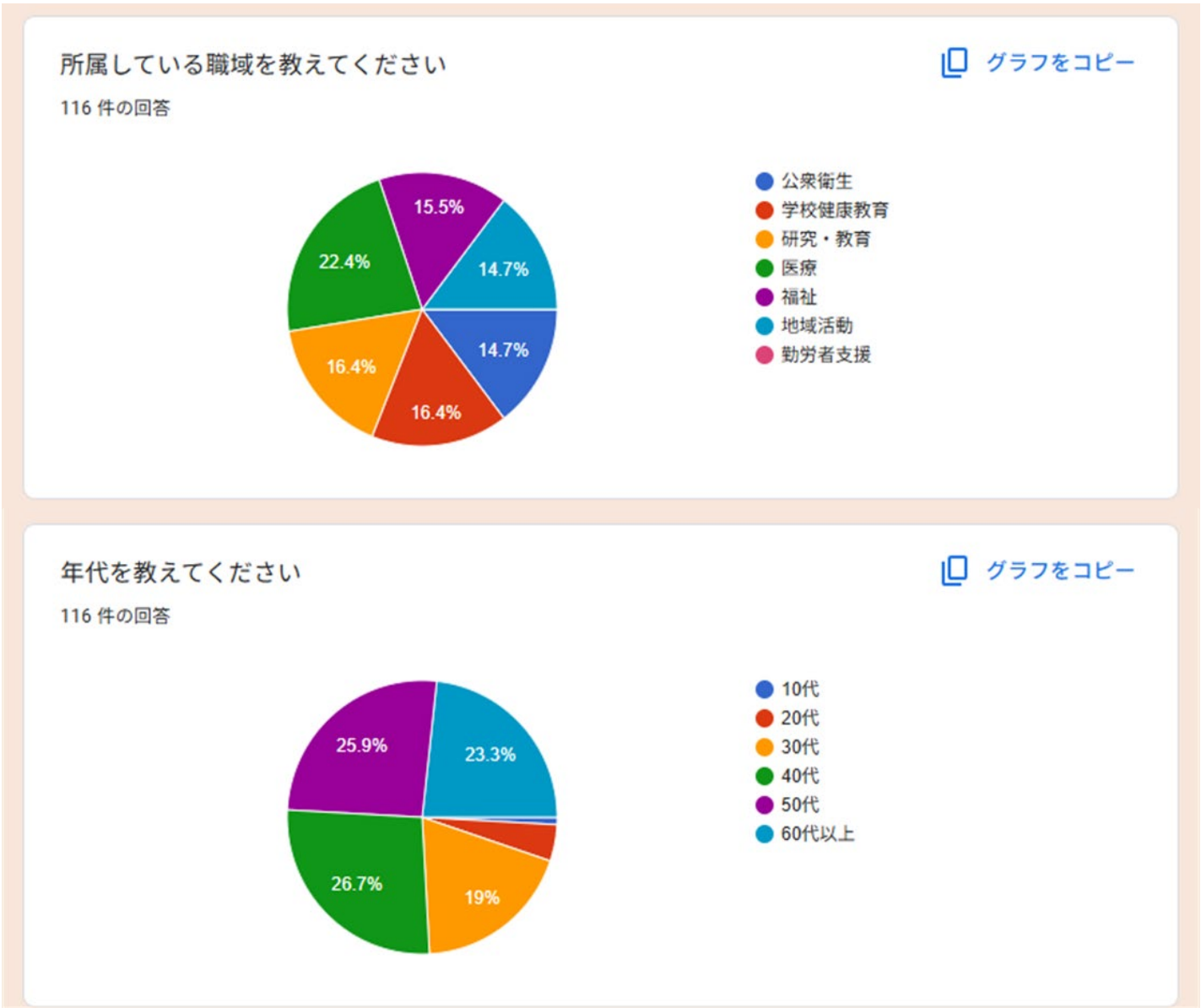
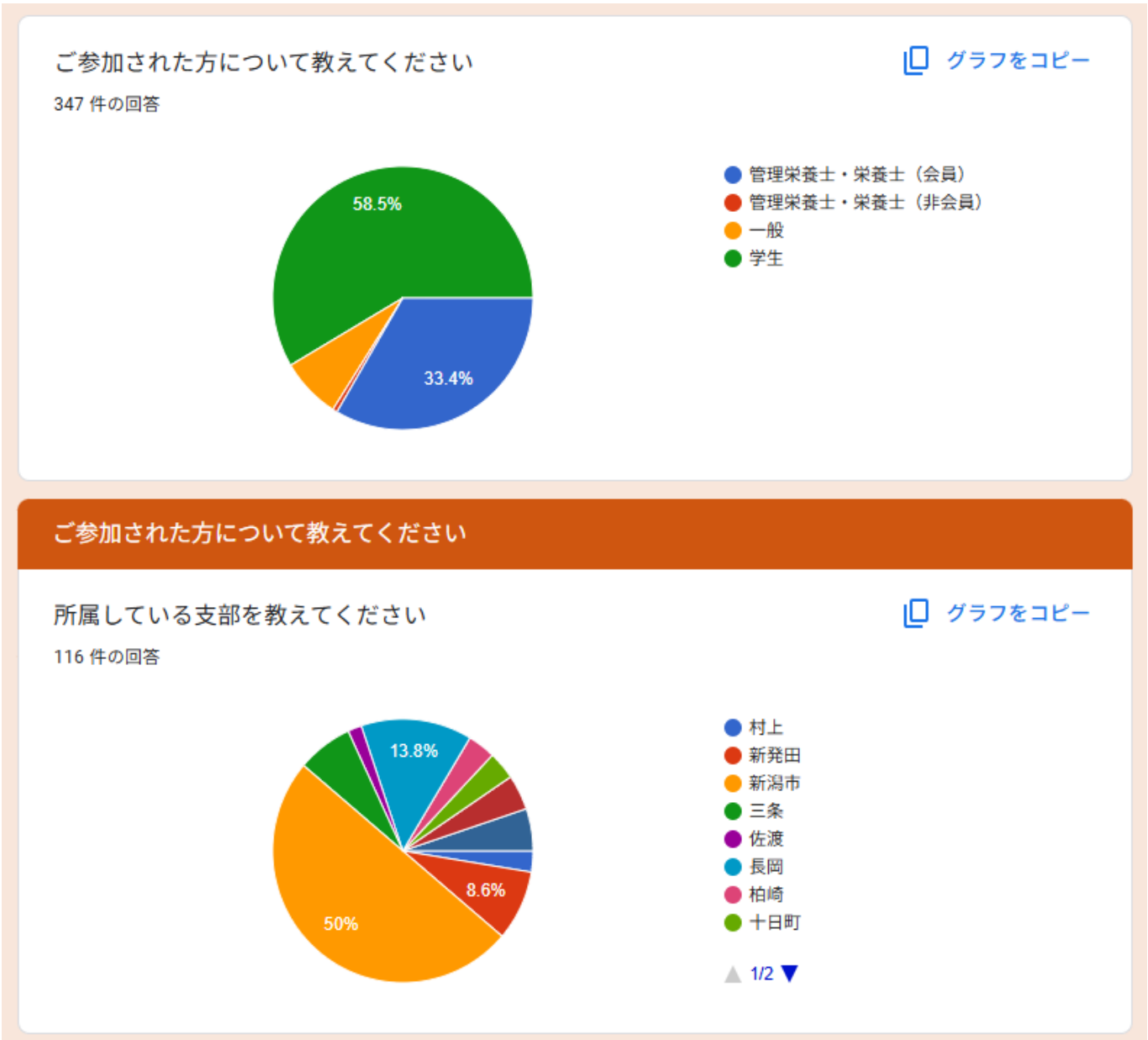
提案者	研修名	研修対象者	開催月予定	内容・講師案	方法
栄養 CS 〇〇	CS セミナー1	CS 登録者のみ？	2026 年〇月		講義 グループワーク
	生涯教育 1	会員・非会員			
	〇〇職域			新役員決定後 〇月までに検討	

80周年記念事業振り返りについて

○参加者数

	午前	午後	(小計)
会員	134	+7	141
会員外	7	+2	9
一般	3	+27	30
賛助会員・来賓		<u>4</u>	<u>4</u>
(小計)	(144)	+40 (184)	(184)
学生	249	188	249
合計	393	302	433

○アンケート

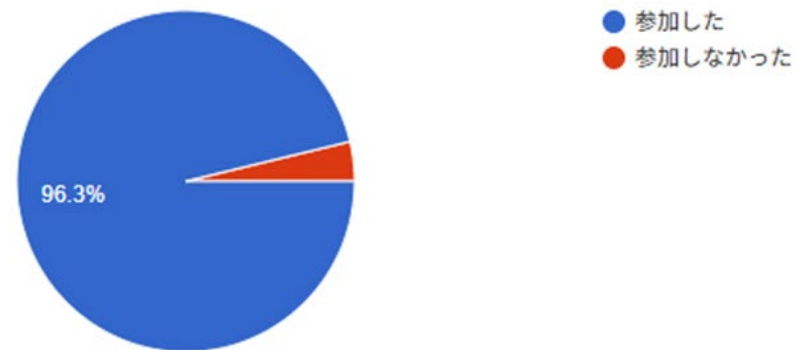


記念講演 「世界に誇るべき日本の栄養 "Japan Nutrition"」 について

記念講演 「世界に誇るべき日本の栄養 "Japan Nutrition"」 について

321 件の回答

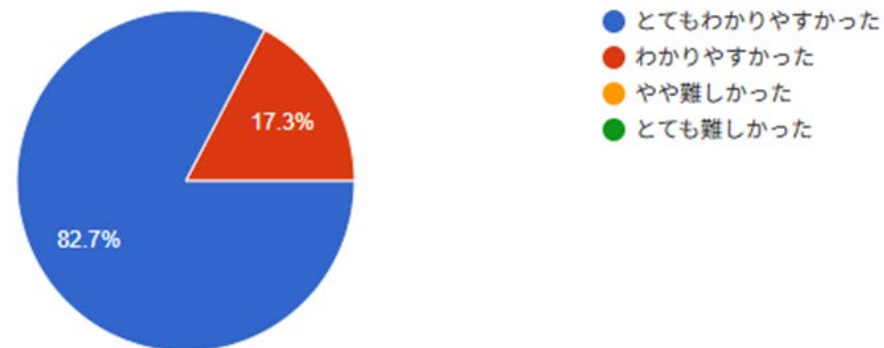
[グラフをコピー](#)



記念講演の内容について

313 件の回答

[グラフをコピー](#)

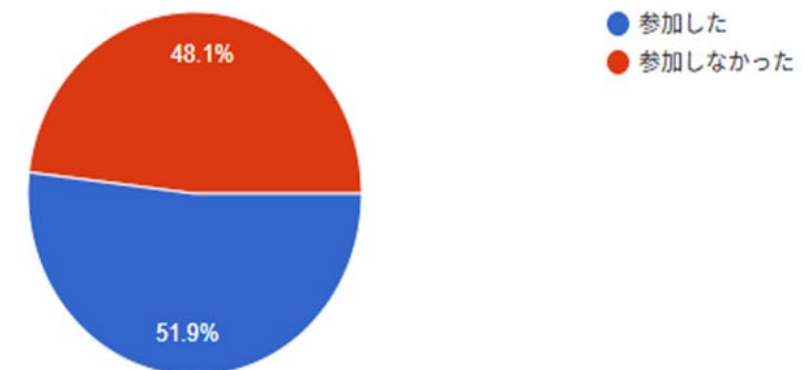


特別講演 「茶色い宝石 が切り拓く病気ゼロ社会～人と腸内細菌にとっての新たな栄養学とは？～」 について

特別講演 「茶色い宝石 が切り拓く病気ゼロ社会～人と腸内細菌にとっての新たな栄養学とは？～」 について

347 件の回答

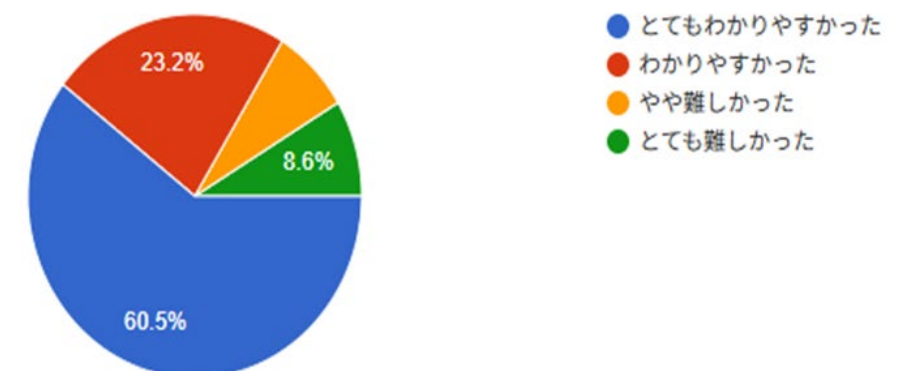
[グラフをコピー](#)



特別講演の内容について

314 件の回答

[グラフをコピー](#)



記念講演に参加し、新たに気づいたこと、参考になったこと、感想などをご記入ください。

188 件の回答

- ・ もう少し時間があればよかった
- ・ 低栄養の場合、死因的にも影響すること
- ・ 資料が欲しかった
- ・ 日本の栄養学は素晴らしいことを実感したと同時に低栄養と肥満が共存していることがわかった。
- ・ もっと話を聞きたかった。
- ・ 最初の1000日の栄養（妊娠10ヶ月と2歳まで）が最も大切だということがわかった。お腹にいるときから栄養が重視されているということが衝撃だった
- ・ 丁次先生は本当に凄い方だと分かった。説明がわかりやすかった。
- ・ 栄養素は健康のためのものではなく、生命に欠かせないものという事が印象的だった
- ・ 仕事の大切さ、重大さを再認識できたワンフォーオール良い表現です
- ・ 栄養素の欠乏は、私につながると聞き、はっとしました
- ・ 時間が短い、レジュメが欲しい
- ・ 会長の中村丁次さんの話を聞けるいい機会だった。日本の栄養についてや世界の話と関連付けた話も聞けてよかった。
- ・ 日本の栄養士や栄養の歴史だけでなく、世界の栄養のお話も聞くことが出来て大変参考になりました。
- ・ 心疾患(心理)と食のつながりがあることに驚きました。改めて食べるものの大切さを感じました。
- ・ 栄養のことについて詳しく深く知ることができてよかったです。
- ・ 一つの栄養素を欠乏させただけで、死にいたることを改めて知り、飢餓にあった胎児は将来肥満になり、生活習慣病になりやすいことを初めて知りま
- ・ 世界に目を向けた会長の活躍に感銘しました。
- ・ 栄養素は40種類あり、それらは健康ではなく命の基になっているということがとても興味深かった
- ・ お話がわかりやすく、とても面白かった。
- ・ 栄養の歴史、始まり。大切さを改めて知ることが出来た
- ・ 栄養士の始まりについてわかった
- ・ とてもわかりやすい講演だった。
- ・ 1つの栄養が欠けてしまうだけで命を落としてしまう。ということを学んだ
- ・ 自分の職業の価値を改めて感じる事ができた
- ・ とてもありがたいお話で、日々の業務へのモチベーションになりました
- ・ 全部聞けなかったのは残念でした。とても面白かった。
- ・ 本当の栄養素と、機能性食品の成分
- ・ 栄養士がいつ誕生したかやどこでどんなことをしているかなどたくさん今後のためになることを聞けてよかったです。
- ・ 栄養士について深く知ることができとても勉強になりました。
- ・ たくさんの元気とやる気をいただきました！学ぶことをやめずに頑張ってください！
- ・ 栄養素は命の素であって、ひとつ欠落しただけでも死に至る可能性がある。そのため栄養素として認められている。
- ・ 栄養士などが誕生したのが昭和20年5月だと言うことがびっくりしました。心不全疾患の人らほとんどの人が低栄養で亡くなっていたことも分かった。
- ・ 栄養って単純に考えちゃいけないなって思いました。とてもわかりやすい講演会でした。
- ・ 栄養は単なる学問ではなく私たちの生活を変える力があるということ
- ・ 食と心疾患の関わり心にも影響を及ぼすことに今日の講演で新たに知ることができた
- ・ 健康寿命の延伸の認識を改めて知ることができました。また、海外の栄養事情についてはあまり知らなかったので、もっと調べてみようと思いました。
- ・ 生命のエネルギー源がATPであるということがとても印象に残りました。また、日本の歴史背景に栄養士の存在が深く関わっているのだと感じました。
- ・ 高齢者の栄養などの問題が凄く分かりやすく対処方なども教えてくれて参考になった
- ・ 日本は栄養士や管理栄養士が沢山いる海外では日本の管理栄養士はとても大切にされていることがわかりました。
- ・ 管理栄養士の歴史や栄養学の重要性について詳しく知ることができたのでよかった。
- ・ いつから栄養士というのが誕生したのかなど話が聞けて良かったです。
- ・ 病気や障害の有無に関わらず、自立して生活できるようにすることを目指していくという考えにとっても共感しました。
- ・ 普段気にしないことだけど、とても大切なことを学べた
- ・ 生物はひとつでも栄養が足りないと死ぬと知って驚いた
- ・ 栄養士の誕生から歴史を知り改めて栄養士は必要な存在だなと感じました。
- ・ 日本の栄養が世界に必要な不可欠であるということが知れた。
- ・ 面白かった。
- ・ 栄養素は生命のもとであるということが印象に残った。
- ・ 管理栄養士の意義を考えさせられた機会になった。
- ・ 栄養についてしることができよかった。
- ・ 栄養を学ぶ意義やその大切さについて深く学べた。
- ・ 大変興味深い内容でした。もっと聞きたかったです。
- ・ 低栄養と肥満の問題は重要だと改めて感じました
- ・ ミネソタ飢餓実験については初めて聞いた。
- ・ 管理栄養士はとても重要な仕事だと改めて感じました
- ・ 学び続けることが大切だと分かりました。
- ・ 栄養士や管理栄養士は人々に必須の職業であることが分かった。
- ・ 栄養は人々の生命と生活を支える
- ・ 普段勉強していることがいかに大切かわかった
- ・ 低栄養だと体だけでなく心理的に悪影響な事がわかりました
- ・ 低栄養で起こる健康状態をよく知れた
- ・ 高齢者の痩せや、肥満の問題について。
- ・ 中村さんの講演を聞いて、栄養士を目指す心構えができ、身が引き締まりました。
- ・ 新たに知ることが多くありとても有意義な時間でした。
- ・ 栄養とはについて深く知ることが出来た
- ・ 年代によって違うことを知った
- ・ 栄養と機能性成分の違い
- ・ とても貴重な経験ができてよかった。
- ・ 日々の活動の励みになりました。
- ・ 栄養士は素晴らしい仕事だと改めて感じました。
- ・ ヘビを食べさせてたことにびっくりしました
- ・ 貴重なお話を聞けて良かったです。
- ・ 分からないことを知れた
- ・ 栄養の大切さがよく分かりました
- ・ 管理栄養士は全体の領域をカバーすることがわかった
- ・ 1つの栄養素が欠けてしまうだけで死んでしまう
- ・ 栄養が生きる根源だということが印象に残った。もっと勉強したいと思った。
- ・ 栄養の重要性について改めて理解できた
- ・ 栄養素は生きるために必要不可欠であることが分かった
- ・ 栄養士としての使命を再認識しました。
- ・ メタボ対策からフレイル対策への切り替えについて
- ・ 過栄養と低栄養の人が共存する社会は対策がとても大変だと感じました。
- ・ 栄養学という分野では日本が先頭に立っているんだなーと思いました。
- ・ 初めて知ったことは昭和20年5月に日本初となる栄養士が誕生したこと
- ・ 栄養はすべての物事の根幹にあるという言葉が心に残りました。
- ・ 栄養士の誕生について新たに知ることができて嬉しかったです。
- ・ 栄養学は生命科学、科学の進歩を学び続けていきたいと思いました
- ・ 過栄養と低栄養の共存について学ぶことができた。
- ・ 終戦前から栄養士会が始まっていたと知りすごいと思った。
- ・ 栄養士が誕生したお話や栄養士がいる目的を知ることができて良かった。
- ・ 健康の定義について、命を支えると聞いて衝撃を受けました

- ・ 何か一つでも栄養素が欠乏すると、人は生きていけないこと。
 - ・ ととても勉強になりました。現代の栄養の事について知る事ができ、とても良い経験になりました。
 - ・ 自分の考えが、合っていたことを知れたので良かった。
 - ・ 戦争中に栄養士が作られたこと、歴史を学べた。
- 記念 NO.2
- ・ 思春期の女性のやせの危険性を理論的に理解することができて良かったです。また、栄養士の歴史をととても分かりやすく説明してくださって、授業でわからなかったことも理解することができました。
 - ・ 日本の栄養が世界に誇れるものなのだと知った。今後は過栄養と低栄養の二重負荷を改善する栄養指導が求められることを学んだ。管理栄養士を目指す上で、生涯勉強を続けることの必要性を強く感じられた。
 - ・ 講演を聞いて健康の在り方をを再認識しました。栄養素とは生命に関わる仕事であることがよくわかりました。どんどんと進歩する化学に着いていく為に勉強を頑張ろうと思いました。
 - ・ 日本人は元々病弱な種族であり、栄養失調、病弱な人が多い所だったが、栄養改善を行い世界に誇れる健康寿命を持つ国になることができ、それを担うのは自分達であるということを知れた。
 - ・ キッチンカーを使い村の隅々まで栄養を届けていたことを知って、現代的な形で工夫をしていたことがわかった。栄養士の資格を取ったあとも学びを続けて、生涯にわたり学び科学についていくことが大切だということが分かりました。
 - ・ 1度飢餓になった人が栄養摂取を再開すると体脂肪が著しく増加すること、意外にもほかの機能はほとんど元通りになることが新たな学びだった。可能であればもっと長く講演していただきたかった。
 - ・ 日本の給食は他の国からみたらとてもすごいことだということに驚いた。たくさんのお話を聞けたので、多くのことを学べとてもいい時間だった。
 - ・ 東京栄養サミット2021の栄養の力で人々を健康に、幸せにする。という言葉がとても印象的でした。栄養士という職は生きていく上でとても重要な職業だということを改めて感じる事が出来ました。
 - ・ 「栄養の力で人々を健康に、幸せにする」中村丁次さんの言葉。そして、栄養素は健康づくりではなく命を保証するものという言葉がとても印象に残りました。
 - ・ 過度なダイエットをしすぎるとエネルギーの消費のし過ぎによってダイエットが出来なくなることを知りビックリしました。また、欠乏症になるリスクがあることを知りました。
- 女性の妊娠で、痩せてしまうと胎児にも影響があることをしり、気をつけようとすごく思いました。胎児が1000日間の間で胎児の人生が決まることにも驚きました。なので、しっかり栄養素は取ろうと思いました。
- ・ 過度なダイエットをすると逆に太りやすい体になってしまう妊婦さんがやせの状態、低栄養の場合、お腹にいる赤ちゃんの遺伝子にも影響を与えるので痩せすぎている状態はよくないことがわかった
 - ・ 日本だけでなく、世界までの視野を広げて、栄養学を学び続け、それを発信して行くことが大切だと感じました。そして日本を世界のモデルにさせる為にもまずは栄養士の資格を取る為の勉強に専念しようと考えました
 - ・ 今回の講演会に参加して、ミネソタ飢餓実験での低栄養で起こる体の疾患についてや、痩せ志向による胎児の脂肪を貯めやすくなる遺伝子の発現や、高齢者のメタボからフレイルの食事の対策についてなど、栄養は健康に生きるためや生まれてくる子供にも深く関わってくる事なんだと事例に触れながら学ぶ事ができて楽しかったです。
 - ・ 機能性成分は不足しても死なず、健康に良い食品だということだけで、それに対して栄養素は命を保証する成分であることが参考になった。
 - ・ 栄養素と機能性物質の違いをわかりやすく説明していただきました。フレイル予防のため、食生活を切り替えるタイミングがあること、高齢者の食事について学びたいと思いました。
 - ・ AIが出てきたことにより、管理栄養士・栄養士の就職求人が減っていると言われていたが、視野を広くすればアジア、アフリカでは必要されていると知り栄養学を学ぶモチベーションを高めることができた。
 - ・ 中村先生の「栄養の力で人々を健康に、幸せにする」という言葉に感銘を受けました。将来、人々の健康を支え、幸福な生活を送る手助けができる管理栄養士を目指したいと思いました。
 - ・ 管理栄養士のこれからの方向性や今の日本の栄養課題とその対応など、新しい知識をたくさん得られた良い講演でした。大学を卒業した後も、対象者さんに正しい知識を提供できるよう講演会を聞いたり、情報を収集するようにしないとけないなと強く思いました。
 - ・ 管理栄養士の成り立ちを知ることで、栄養学を広めていく役割の大切さに気づきました。栄養学は全ての人が健康に暮らすことに役立つとともに生きるために必要なものです。そのことは、栄養学を学ぶことでより理解を深めることができると思うので、今後も管理栄養士の勉強を頑張っていきたいと思います。
 - ・ 日本の栄養がこんなに世界へ影響を及ぼしているということが、これまで言葉として言われても実感がなかったのが実際のこととして見る事が出来た。
 - ・ メタボからフレイルへのギアチェンジが課題であるとしり、ハッとした。痩せることの重要性や、体重を維持することの重要性は年齢や体調によって異なるのだと考えました。
 - ・ 体内の仕組みが決定するのは生まれて1000日間（妊娠期10ヶ月+2歳の誕生日まで）ときき、妊娠期から決まると言うのは知っていたものの、1000日と改めて言葉にすると人間の生体の発達に感動した。高齢期への食行動のギアチェンジについては、自分の親がいちばん身近な話題なので、もっと自分でよく勉強して、親の健康をも支えていけるようになりたいと感じた。
 - ・ 日本の栄養は世界から見ても素晴らしく、栄養士によって食が支えられているということは当たり前ではないということがわかった。そのため、学んだ知識を自分たちの国だけで止めておくだけではなく貧困で困っている世界の人々にも布教することが大事だと思った。栄養士という仕事にやりがいと誇りを持ってこれからも勉強に励みたい。
 - ・ 今回の講演会で栄養士がなぜ必要とされているのかについてや、低栄養の状態の人に対してどのような治療方法があるのかについて参考にする事ができた。
- 食料飢餓がある地域では低栄養の状態にある多くの子供が点滴やチューブを使って治療を行うことに抵抗感を感じているという問題点に気づくことができた。
- 日本ではお年寄りや思春期の中学生などが低栄養の状態になる傾向があると学ぶことができた。食料飢餓がある地域では栄養士がもっている知識を使って治療を行っていくことの重要性に気づくことができた。
- 日本で低栄養の状態になった場合は身体的な面での治療だけでなく心の治療も行っていくことで改善につながっていくのではないかと考えるようになった。
- 栄養士として働き続ける場合は学校で学んだ知識だけでなく、最新の科学的な知識の習得も必要になってくると学ぶことができたので、そのようなことも考えられるように意識して生活を送っていきたい。
- ・ 80年は長いけど人の歴史で見たらまだ産まれて間もないくらいで短い間で日本の人の栄養の価値観は変わって昔の常識が今の常識になってて今の常識もすぐに昔の常識のようになるかもしれないと思ったら面白かったでも勉強するのは嫌
 - ・ 生活習慣病にならないために過食予防の栄養指導をしていて、そのまま高齢化してしまうと、心疾患を持っている人が低栄養で亡くなるという事態が発生してしまうため、栄養指導のギアチェンジが大切だということを学んだ
 - ・ 栄養学は生命科学の基盤であり、全ての人々が健康で幸福な幸せを送るための役割を栄養士が担っていると分かりました。食事は体や心の状態にも繋がるため、正しい食生活を送ることがとても大切であると分かりました。
 - ・ 栄養士が生まれた背景や使命がよく分かりました。過度なダイエットによって体脂肪がダイエット前よりも高くなる事がとても印象に残りました。
 - ・ 集中して聞いていた。もっと詳しく聞きたかったが、これまでの日本栄養士会の歩み、栄養・栄養学が人々の健康に関して明らかにしたことが分かったので、勉強になった。
 - ・ 栄養士として世界に視点を広げていく、栄養学は身体と心に密接に関わっていると学んだ。子供たちの栄養教育はこれからの世代が継承していきたい。
 - ・ 思い込みだけでは気づかないことがたくさんあるなと気がついた。こうだから大丈夫だろうではなく、意外とこうだからこうなって悪くなっていることもあるんだと知った。
- 老若男女関係なく気をつけることはたくさんあり、健康に生きていくためには自分自身も意識して過ごしていかなければならないと思った。
- ・ 栄養士が誕生した経緯や歴史を知ることができて良かったです。栄養素は健康的な生活を送るためのものではなく、一つでも欠けたら命を落としてしまう、人間の生命を支えているものだということが印象に残りました。
 - ・ 日本の栄養士は大変な戦時中でも生きていくために主導者をつくらうとしたことがきっかけとなって誕生したということを初めて知って、国民のために動こうとしたその姿が素敵だなと思いました。そして科学は進歩し続け、止めることができない

- ・日本は管理栄養士の人たちのおかげで病気をあまり持たず健康に過ごせていることが分かりました。まだまだ世界には飢餓に苦しむ方達もいるのでそういう人たちがもっと健康に暮らせる世の中になって欲しいと思いました。とても分かりやすい説明で聞いていてとても興味深かったです。
 - ・今回の講演会でいつ、どのように栄養士が生まれたのか、生命のエネルギー源は炭水化物、脂質、たんぱく質ではなくATPだと言うことが理解できた。特に驚いたことは最近の栄養問題は女性の痩せへの固執による低栄養ということ。
 - ・管理栄養士の国試を合格して終わりではないことは意識していましたが、中村先生の学ぶことをやめてしまったら進歩し続ける科学技術についていけず、国民を幸せに健康にできないという言葉聞き、さらに強く意識して行こうと思いました。

記念　NO.3
- ・日常業務へのモチベーションが上がって良い話だった。全体的にワクワクするような前向きな内容だった。
 - ・栄養は健康のためでもあるが1番は生命のためであると日本の歴史を通して知り、栄養を学ぶことの価値が更に高まりました。
 - ・どうして栄養士が必要なのか、管理栄養士の役割などを改めて意識することができました
 - ・栄養士の歴史初めて聞きました。現在の職を取り巻く環境が問題、私たち栄養士に求められていることを考えさせられました。
 - ・日本の栄養が当たり前ではないこと、今後も新たな情報取り入れながら、日々勉強の心を大切に精進していきたいと思いました
 - ・日本栄養業界の歴史と発展、そして中村先生の深い知見のわずかな部分に触れる良い機会となり、自分自身の学びのモチベーションが上がった
 - ・とても良かったがんばりましょう。万博は外山さんのバビリオン行ってきました。人間は命をいただくだけでなくるのでしょいか？
 - ・栄養は命に関わるもので、そこに携わる私たちは学び続けていく必要があると背筋が伸びる思いでした
 - ・とても貴重な話をありがとうございました。もっともっと聞きたかったです。改めて勉強続けていこうと言うモチベーションが上がりました。
 - ・これまでの栄養士の歩みがよくわかりました。使命感を持って業務にあたりたいです。
 - ・栄養士、管理栄養士の使命について改めて気づくことができました。感動しました。
 - ・非常にわかりやすく興味を持って話を伺いました。子の栄養の1000日についてつわりがきつかったので、心が痛みました。
 - ・栄養士の活動が日本人の健康に寄与していることがお話を聞いてよくわかりました。力が湧いてくる感じがしました。
 - ・管理栄養士の業務について大変参考になりました。今後の業務に活かしていきたいと思います。
 - ・中村先生の栄養の力で、人を健康に幸せにするとという言葉に感銘を受けました。日進月歩である栄養学を学び続けたいと思った。
 - ・すべてのスライドの話が聞きたかったです。今後の業務に生かせる内容でした。
 - ・自分の今、現在の知識はとても古い頃のもので、常に最新情報を自ら取得すべく勉強していかなければと実感しました
 - ・高齢者の中には、機能性食品を過信している方もいらっしゃると思います。栄養ときちんと分けて説明をしたいと思いました。
 - ・健康寿命の概念が広くなりました。改めて言葉の意味を聞いて良い機会となりました。
 - ・栄養素が欠乏すると、命に関わる大切なものであること。機能性を維持する成分とは一線を引くものであることがわかってよかった
 - ・最新の情報わかりやすく面白くお話ししてくださり良い講演でした。ぜひまたお聞きしたいです。
 - ・栄養士として意識していかなければならないことを再認識させていただきました。日々忘れずにしていきたいと思います。
 - ・大変貴重な話を聞けました。お忙しい中とてもありがたかったです。お話もっとお聞きしたかったです。日々の業務、これからも頑張ろうと思いました。
 - ・栄養士の誕生の背景から、現在の栄養の課題まで幅広い内容でお話が聞けてとても勉強になりました。
 - ・私たちが知っている栄養の知識は世界では当たり前のことではないということが分かり、日本の栄養教育はすごいのだと感じた。
 - ・管理栄養士の歴史や、今後の管理栄養士の役割について貴重なお話を聞くことが出来て良かったです。ありがとうございました。
 - ・管理栄養士と言う職業は、人が生きるために大事な職業であり、これからもたくさん勉強して新たな発見ができるとより健康で長生きができるのではないかと感じました
 - ・栄養状態になると、体の変化だけではなく、心の変化もまれると言う話を多くの人に知ってもらいたい内容だったので、市民の皆さん向けに話をしたいと思いました
 - ・私の中で、モルモットが栄養欠乏で死んでいく事は栄養の重要性を強く感じました。また楽しく難しい話題もわかりやすく簡素にいただいたことに感謝しています。
 - ・わかりやすく、楽しく元気が出る話を聞くことができた。日本の栄養の歴史を振り返ることができ、学生時代から今まで栄養学の発展、これから先、栄養士としての役割を学ぶことができた。80周年の講師が会長で入会した頃にも、会長の話を聞いたがあるので嬉しく思いました。
 - ・生活習慣病からフレイル対策への切り替えについて、新たに学んで勉強になりました。また切り替えポイントや具体的などところの研究会があるといいと思いました。
 - ・中村先生のお話を新潟でお聞きすることができ、とても嬉しく思いました。栄養士、管理栄養士のすべきこと、命に関わる職種であること、いつも勇気づけられています。子供たちに関わることができる場にいるので、自分にできることに精一杯取り組みたいと思いました。
 - ・過栄養と低栄養の切り替えが管理栄養士として働く上で大変なのかなと感じました。ひとつひとつのスライドに対して深くお話ししていただけてとても学びになりました。もっとお話を聞きたいと思いました。
 - ・最初のスライドの日にちが違ったのが気になった。栄養不良の2重負荷初めて知った。またメタボからフレイルへのギアチェンジも初めて知り、これからの管理栄養士に必要なことを聞けて勉強になった。
 - ・日本ほど栄養に関するシステムが整っている国はないとのことで日本の栄養学に誇りを持って海外などにも視野を広げたいと興味本位ながら思うようになりました。すごく有意義な講義になりました。
 - ・栄養士が誕生したのが昭和20年5月だったと言う事はとても驚きでした。栄養素がいつでも欠乏すると人は死ぬことになるんだと言うことをこれからも心に留めておきたいと思います。
 - ・栄養素と機能性食品の根本的な違いが命に直結しているかどうかと言う話目から鱗でした。中高年の栄養指導のギアチェンジの指標、わかりやすかったです。時間が足りず残念でした。生の中村先生はオーラがあり参加して良かったです。

特別講演に参加し、新たに気づいたこと、参考になったこと、感想などをご記入ください。

119 件の回答

特別 NO.1

内容がとても難しかった

- ・ 参加出来なかったですがお聞きしたことがあります。ぜひまた聞きたいです！
- ・ 自分の体の中にある腸内細菌を知ることで自分が何を食えばよいかがわかることがわかったでもそれをやることは難しいと思った。
- ・ 一人っ子でも便を保管することで、腸内細菌に異常が見つかってその便を使用して腸内細菌のバランスを保ち直すことができることを初めて知った。
- ・ 捨てるしか道はないと思っていた便がひとを救う可能性があること知り、検便をして健康であれば献便したいと思った。
- ・ 便が難病を治すことにつながるということを初めて知り、とても興味深かったです。
- ・ 配偶者や親子よりも、兄弟姉妹の便を移植した方が潰瘍性大腸炎が再燃しにくいと聞き、とても参考になりました。
- ・ 最先端の研究はわかりやすく伝えていただき、とても興味深く思いました。実用化を期待します。
- ・ 腸内細菌が人によって違うことに驚きました。それによって合う食品薬品も変わるのですね。
- ・ 腸内細菌は多種類あり多様である。腸炎のみでなく、癌の治療にも効果があると言うことがわかった。
- ・ 大変面白く聞かせていただきました。腸内細菌の種類で食べ物を選んだり便から健康が作られていると思いませんでした。
- ・ 腸内環境が良いと体力やその他たくさんの面で健康に良いことを知りました。自分の腸内環境を知って、それに合った食事を摂りたいと思いました。
- ・ そもそも腸内細菌が体にとって重要である理由と、それを活用した様々な取り組みを知ることができ良かった。
- ・ 献便にとっても興味を持った。誰かのためや、将来の自分のためになるのであれば、やってみようかなと思った。
- ・ 便で人の命を救えるほど腸内細菌というものは大事な存在なのだと気づくことができました。
- ・ 内容が分かりやすく聞きやすかったです。知らなかったことばかりでとてもおもしろかったです。
- ・ 難しい内容のはずなのに、とても聞きやすくて分かりやすかったです。便への考え方がガラリと変わりました。
- ・ 腸内細菌は持久力が上がったり集中力が上がったりと、免疫以外のことにも関係していると知って興味深いと思った
- ・ 内容も興味深いことが多かったが何よりも便を医学に使うとしているのがすごいと思った
- ・ 便が未来の医療に重要な役割を果たす可能性があることを知り驚いた。貴重な講演を聞くことができてよかった。
- ・ 茶色い宝石が日本の医療現場を変えるかもしれないというのが驚きだったが、興味深い内容だった
- ・ 非常に興味深い内容でした。一般人の行動指針を具体的に教えていただけるとさらによかったです。
- ・ 腸内細菌が自給力に関係することや、CKD DMにも関係することを知れてよかった。目から鱗でした。
- ・ 身近にある自分たちの便によって難病の患者さんを助けることが出来るかもしれないと知り便の偉大さを実感した。
- ・ とても面白い講演でした腸内細菌は人の体調や精神まで整えると学んだので、少しでも腸内環境を良くする食習慣にしていきたいと思った。
- ・ 便中の腸内細菌やメッセンジャー物質から、今の腸内環境が健康な状態か否か判別できるというのは凄いと思いました。
- ・ もっといろいろなことを聞きたかった。またお話をお願いします。
- ・ 健康な人に健康を意識してもらおうとするのではなく、無意識のうちに健康に良い行動をとってもらえるような活動があることを初めて知りました。
- ・ 食と腸内細菌がどう関係しているのか、それが自分に合っているかなど知ることが大事だと思いました
- ・ 便が健康であれば、難病の患者様も救えるかもしれないと言うことに驚きを感じました
- ・ もっと難しい話だと思っていたが、面白くて聞きやすかった。QRコードがあってサイトに入れるのは便利だと思った。
- ・ 将来の健康な腸内環境が、健康な人の便から知ることができると驚いたし、有望だと思った
- ・ 腸内細菌については学んだことがありませんでした。先生のお勧めしてくださったサイトを読んで、自分の健康にも役立てたいと思いました。
- ・ 便移植の事は知らなかったので、難病を治すことができるということなので、このような知識を広めていく必要があると感じた
- ・ 自分の便環境に関心を持ち、腸内細菌を調べてもらおうと思った
- ・ 胃の手術をした人は、便の匂いがひどいのはなぜか
- ・ 腸内細菌に関して、新たな発見や特徴など改めて詳しく聞くことができ、とても勉強になりました
- ・ 腸内細菌の話は聞いたことがなかったので、参考になりました
- ・ 未来は明るいと思った
- ・ 便に多くの情報が詰まっていること、難病の大腸炎の治療が可能だと言う事、そして健康な体調改善ができること、未来に向けて凄まじい可能性と感

- ・ 最新の便の知識を知ることができた
- ・ 家族の腸内細菌を調べたいと思いました。
- ・ 興味深い話でした。
- ・ 腸内細菌の研究がここまで進んでいることに驚いた
- ・ 健康な人の便が病気の人を救えることがわかった。
- ・ 研究が進み苦しんでいる人々が救われるように願っています
- ・ 腸内細菌の可能性をとっても感じました
- ・ スライドのコピーが欲しい
- ・ 食事の重要性を再確認できた
- ・ 特別講演には参加していないので、内容についての評価をすることはできません。
- ・ 腸内細菌の様々な機能について知ることができた。
- ・ 腸内細菌を増やすだけで持久力が上がることに驚きました
- ・ 茶色の宝石が面白かったです
- ・ 例えが身近でわかりやすかったです
- ・ 今まで捨てていた便にこんな活用法があるなんて知らなかった。
- ・ 健康づくりの新たな視点として改めて話を聞きたいと思いました
- ・ 資料が欲しい
- ・ 排便コントロールで悩んでいる患者さんが身近にいるので参考になりました
- ・ 楽しく勉強になりました。腸内細菌は大事ですね。
- ・ 普段接する機会のない話を聞けてとても興味深かった。
- ・ 自分のためになるお話を楽しみながら聞くことができた。便の偉大さが伝わった
- ・ 2030年周辺が楽しみになった。
- ・ 健康な人の便で病気の人を助けることができること。
- ・ 腸内細菌の種類は人によって違うこと。
- ・ 腸内細菌について、研究が進んでいるんだと感じました
- ・ 最新の情報で目から鱗でした。最適食を食べる時代が来ることが増えてきました。
- ・ 非常に勉強になりました。お腹の件について今一度食生活を見直したいと思います。
- ・ 茶色い宝石がどんな役割をするかがわかった。
- ・ 献便してみたい
- ・ 自分の便で誰かを助けられるかもしれない。ってことがあるんだと思って驚いた
- ・ 腸内細菌のことや便移植のところをよく理解できた。
- ・ 自分の腸内環境をまず知りたいと思った
- ・ 免疫チェックポイントの治療効果に腸内細菌数が関係していること
- ・ 資料が欲しかった
- ・ 新しい知見を知れてよかった。とても興味深い講義でした。
- ・ 腸内細菌を知る原稿保つために、自分の便を知る目から鱗の話だった
- ・ 便移植、スマートシティー構想、健康時の腸内細菌情報
- ・ とても勉強になりました。最新の話聞いて良い機会でした。
- ・ わかりやすく、楽しかった
- ・ レジユメが欲しい

- ・ 腸内環境がとても大切なことがわかり、とても興味深かったです。腸内デザインでこれからの未来が明るくなると感じました。
 - ・ 有意義な講義でした。不思議な世界のことで、なかなか国民に理解ができないことで、もっと国民が知るようにすると思います。
 - ・ 人の排泄物を有効に活用とする考えに驚きました。将来病気の人が0になることを願います
 - ・ 腸内細菌が作る短鎖脂肪酸が持久力に関係があると言う話がとても興味深かったです。面白い話であっという間の時間でした。
 - ・ 自分の腸内細菌の情報を知ることが大切だとわかった。これからは個別最適化食も必要になると知り、どんどん研究が進んでいると感じる講義でした。
 - ・ 自分の腸内環境に合っている食事があることがわかった。それがどのような食事であるか知りたい。個別に指導する場合はどうすればいいのかも知り
 - ・ 便がとってもすごいことがわかりました。自分も腸内環境を調べて、あった食事をしたいと思いました。
 - ・ 便を調べることで、健康につながる。食品を選択できるという事はとても参考になりました。
- ・ 講師は発声トレーニングを受けてください。内容は難しかった。
 - ・ 自分の腸内フローラを知ろうと思いました
 - ・ 自分の腸内環境を調べてみたいと思った
 - ・ 自分の腸内細菌が知りたくなりました。とても興味深いお話で面白かったです。
 - ・ 初めて聞く話ばかりでおもしろかったです
 - ・ とても素晴らしいお話が聞けてよかった
 - ・ 腸内細菌もとても健康に関係していることを改めて実感できた
 - ・ 業務に役立つ情報だけでなく、自身の便にも役立つ講義でした

特別 NO.2

- ・ 大変興味深いお話でした。腸内細菌の大切さは知っていましたが、治療につながること、様々な病気を防ぐこと可能性がとてもある分野だと実感しました。自分の腸内細菌を知りたいです。
 - ・ 腸内環境に非常に興味があります。自分の腸内細菌がわからないので、毎日取るヨーグルトにオリゴ糖も毎日変えて13種類をローテーション実践していました。ぜひ自分の件を調べたいと思います。もっと詳しく勉強したいです。
 - ・ 健康な腸内細菌だと花粉症予防や抗肥満、持久力など様々なことに良い影響を与えるヨーグルトや乳酸品の乳細菌は毎日食べないと腸内に定着しないことがわかった
 - ・ 人によって腸内細菌が違うことがわかりました。腸内細菌は病気を防ぐだけではなく持久力にも関係があると知って驚きました。便で難病の人を助けられることがわかったので自分の腸内細菌を調べてみようと思いました。
 - ・ 難病が健康な人の便で良くなることに驚いたと同時に、自分の健康時の腸内環境を知ることがこの先の自分もしくは兄弟、多くの人を助けられると強く感じ、食事と健康への意識が高まりました。
 - ・ 研究は初めて聞くことが多く難しかった。便をお金に換算したり、青学でスポーツとの関連を研究したりと私たちにとっての有効性を知る機会やきっかけをさらに得られるとよいと思う。
 - ・ 茶色の宝石と呼ばれている便は普段気にかけていなかったけど、とても大切なものでありこれからの健康社会に大きな良い影響を受与えると新たに気づきとても驚きました。検便で便を献上するとAmazonギフト5000円分貰えたりするという制度があると聞いたことがなかったので、興味を持ちとても面白いと思いました。
 - ・ 使用しているオリゴ糖などが、効果のある人とない人がいるのは持っている腸内細菌による違いだと言うことを知った。効果が出た人が数ヶ月後から便が出にくくなるのは、なぜか次回の公演で聞かせてほしい。
 - ・ 最初は便の話をしていて面白いな～とおもっていたんですが、聞けば聞くほど本当に世界から病気が消えることが可能なかもしれないって納得する部分がたくさんあり非常に勉強になりました！
 - ・ 腸内細菌が人によって全く違うということがわかりました。腸内細菌ドナーの存在も初めて知り、潰瘍性大腸炎などの対処療法しかない疾患の治療に役立つ薬が作れるということが衝撃でした。今まで当たり前捨てていた便が宝石に思えるほど、重要性を実感できました。
- ・ 便の病気を治すには両親や配偶者の便を使うのではなく兄弟の便が1番効果的という話をききとても驚きました。また、病気に苦しむ人たちを助けるために献便といった活動も行っていることにも知り驚きました。講師の方のお話がとても面白く初めて聞くお話ばかりだったのでとても興味を持ちながら聞くことができて良かったです。
 - ・ なぜ便が茶色い宝石といわれるのかを知ることができ、人の腸内細菌はそれぞれ違うため食習慣がとても大切なのだと理解しました。また、私は便秘移植が印象に残りました。移植と聞いたら臓器しか思い浮かばなかったけど、健康な人の便で難病者を救うことができると聞いて、医療の可能性の広がりを感じました。知らないことを沢山知ることができてとても面白い講演でした。
 - ・ 時々講演を聞いている人を楽しませるような事をお話して下さり、とても楽しみながら腸内細菌について学ぶことが出来た。持久力には腸内細菌が関係していること。食べ物から摂取する乳酸菌などの発酵食品は毎日食べないと強力な元からいる腸内細菌に追い出されてしまうなど初めて聞く様々なお話のないように驚くことばかりだった。腸内細菌のエサになるオリゴ糖は人によって合う合わないがある事に特に驚いた。講演で聞いたことを参考に少しでも腸の中を良くできるように努力したい
 - ・ 潰瘍性大腸炎で苦しんでいる方が多くいる。便秘移植で良くなるのなら素晴らしいと思う。様々な腸内細菌があり、人によって効果が違うこともすごく驚き。自分に合うものを知ることが健康につながる。それがわかる日が早く来るといいと思う。
 - ・ 前から難病指定の疾患を治すことができる手がかりがあることに驚いた。誰かの病気を治すことの助けになれるよう、自分の健康を守りよく知り活動を行い、貢献していきたい
 - ・ 腸内細菌の重要性は理解できました。商業ベースの意見ではなく、もっと具体的にどの食品を摂取し、続けたらいいのかと言うことをもっと細かく説明して欲しかった。
 - ・ 少し前まで看護師でした。今回介護予防体験の場で講演会の案内がありました。久しぶりに講演会に参加して、現在の医療や栄養について貴重な情報を教えていただきました。栄養士の方々もいろいろ研究されていることを改めて認識しました。
 - ・ 腸内環境をどうやって整えて行かかが、病気改善につながると分かり腸の検査してみたいと思いました。兄弟がいると治療に有効という中で、他人の便を利用して治療をしていくという話にどれほど血縁関係がなくても効果があるのか気になった
 - ・ 自分の便が病気の人の治療に役に立つ可能性後あることに驚きでした。治療に役に立てるか、自分の腸内環境はどんななのかわ知るためにいつか検便してみたいなと思いました。
 - ・ 便提供という新たな仕組みをつくった福田さんの研究の偉大さに感銘をうけた。鶴岡に友人がいるため、会いに行った際に献便の施設によって検査をぜひしてみたいと思う。
 - ・ 駅伝選手の話で、腸内環境の菌数が多い人ほどレースタイムが速いという話から、菌数が多いと細菌が排出した短鎖脂肪酸が肝臓に作用して持久力が上がったと聞いて、腸内環境と体力はこんな関係があったんだなと思い学びになりました。他にも薬の効かないがん患者に便秘移植をすると薬が聞くようになったりなど、薬の効果とも腸内環境は繋がっていると学べて、腸内環境や慣例性などもっと知りたいと思えて楽しい講演会でした。

ご意見・ご感想があればご記入ください

60 件の回答

全体 NO.1

- ・ スライドを撮影している人がいて、それはオッケーだったのか。気になった。(中村先生の時)
 - ・ 面白い話も混じえて話していて聞きやすかったです
 - ・ ロビーの展示や食品の説明がとてもわかりやすかった。特に災害色は実際にやってみようと思った
 - ・ 時間に余裕があってよかったです。展示も含めて楽しめた。
 - ・ 参加してよかったです。ありがとうございました。
 - ・ 2名ともとても勉強になる話で楽しく講演を聞くことができました
 - ・ どちらの講演もわかりやすく、楽しく勉強になるお話でした。ありがとうございました。
- ・ 会場が少し暑かった
 - ・ 参加できてよかったです。
 - ・ 運営お疲れ様でした
 - ・ 会員増対策
 - ・ ご準備ありがとうございました
 - ・ 貴重な講演の機会ありがとうございました
 - ・ 短い時間でしたが、大変勉強になりました
- ・ 良い記念公開講座ありがとうございました
 - ・ 講演会に参加できてよかったです。ありがとうございました。
 - ・ 講義の内容も良かった。久々に皆さんに会えたのもよかった。
 - ・ 80周年おめでとうございます。栄養士の歴史を感じることができました。
 - ・ ありがとうございました
 - ・ 中村先生の記念講演が大変勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・ 80周年にふさわしい素晴らしい記念式典でした。参加できてよかったです。
- ・ 人数の関係もあると思うが、記念公園も参加したかった。栄養士限定は残念でした。
 - ・ 会員を増やす取り組みとして、今回の記念公演のような機会があると良いと思いました
 - ・ 大変勉強になりました。有効な時間を使わせていただきました。
 - ・ 初めて出ましたが、思ったより来やすい感じでよかったです
- ・ とても勉強になる講演でした。
 - ・ 貴重なお話を聞けて良かったです。
 - ・ ご準備お疲れ様でした
- ・ 参加者が少なく残念でした
 - ・ レジユメが欲しかった
 - ・ 意識、欲が上がりました。大変良い講演でした。
- ・ 企業検討中です。老人の腸のトラブルを多く聞いていますが、老人に対する研究もあるのでしょうか。最後まで健康で過ごせるように個別最適食により関心があります。ぜひ講座を開いていただきたいです。
 - ・ 中村先生のスライドを特別にダウンロードさせていただけるとうれしいです。最後まで聞けなかったのが残念でした。
 - ・ 栄養士の各事業部の紹介は、会員としてそれぞれの分野のことを知ることができた。学生さんも多く、栄養士会を知ってもらう機会になったと思う企画に関わった方の思いが伝わる会でした。参加してよかったです。
 - ・ とても勉強になりました。知らないことばかりでした。オリゴ糖をよく買うので、内容よく見てみます。
 - ・ 貴重な講演を聞くことができとても嬉しいです。今回の貴重な講演を忘れず、これからの自分のライフスタイルに活かしていけたら良いと思います。とても価値のある時間でした。ありがとうございました。
 - ・ 総会式、特別講演のつながりが長くて持て余す感じがありました。遠方からの参加なので10時から3時位だとありがたいです。休憩時間は要らないです。9時開始だと7時前には家を出なければいけないので

外部理事・監事の報酬・定款変更について

定款>11 章 49 条より、定款は、総会の決議によって変更することができる。とされている。

確認 1：外部理事・監事について、定款の変更（追加）は必要という認識で良いか。

▶ご回答（税理士_山田）

現在の栄養士会の定款を調べてみると、第 25 条の 1 項に、「なお、**理事は、会員の中から選任する。**」旨の記載がありますので、ここは**定款の変更が必要**です。

監事の方は、第 25 条 4 項に選任基準が書かれていますが、**会員等に限定されていませんので、変更は不要**です。

確認 2：定款を変更するには「第 49 条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。」とありますが、臨時総会を開かなければならないのでしょうか。

▶ご回答（税理士_山田）

定款を変更するためには、社員総会で決議する必要があります。

ただし、以下のスケジュールでいけば、臨時社員総会は必要ないように思います。

外部理事の導入の適用時期は、令和 7 年 4 月 1 日以降、全ての理事の任期が満了する日の翌日から適用となります。

つまり、栄養士会の場合は、令和 8 年 6 月に開催される定時社員総会の日の翌日時点で、新しい規程に適合している必要があるということになります。

従いまして、次の段取りで進めれば良いと思います。

令和 8 年 6 月の定時社員総会において定款変更並びに理事（1 名以上の外部理事を含む）及び監事（1 名以上の外部監事を含む）の選任をするための準備を進める。（定款変更案の作成、人選等）

↓

令和 8 年 6 月の定時社員総会において定款の変更、外部理事を含む理事の選任、監事の選任を決議する

↓

議事録を持って登記する

以上のようなふうかと思えます。

よろしくお願い申し上げます。

=====会計から未来を導く、企業発展のパートナー。=====

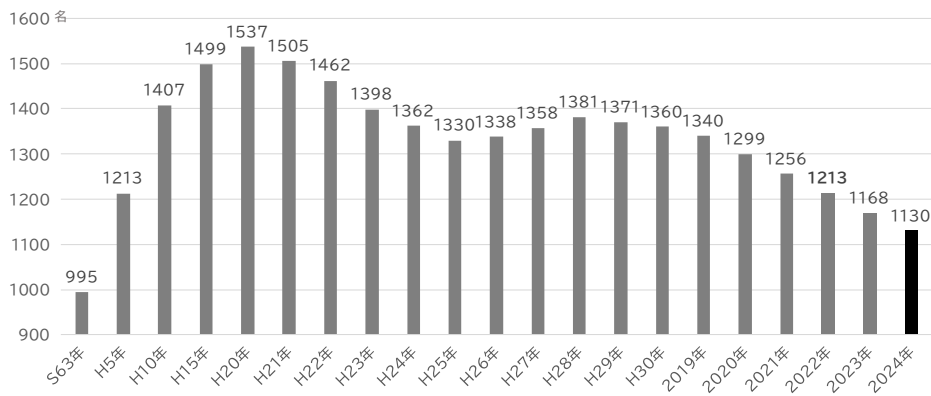
税理士法人 ながおか会計 西事務所

所長・税理士 山田 康博

今年度の会員数について

○定期総会 2025vol.57 p 68 より

新潟県栄養士会 会員数の推移



支部別・職域事業部別正会員数(2025年3月末現在)

	医療	学校健康教育	勤労者支援	研究教育	公衆衛生	地域活動	福祉	合計
村上	12	2	0	0	8	1	3	26
新発田	22	15	0	1	13	8	27	86
新潟市	156	60	5	33	31	55	84	424
三条	32	12	1	0	15	26	25	111
長岡	49	22	5	11	16	21	28	152
柏崎	4	9	0	0	7	8	10	38
魚沼	22	10	0	7	10	6	13	68
十日町	11	10	0	0	7	4	17	49
上越	29	30	1	1	18	7	52	138
佐渡	6	8	1	0	9	3	11	38
合計	343	178	13	53	134	139	270	1130

新入会・再入会・退会・滞納の職域別内訳人数

	新入会	再入会	退会	滞納
医療	12	12	15	8
学校健康教育	3	1	11	2
勤労者支援	1	0	1	0
研究教育	2	2	3	3
公衆衛生	3	2	4	2
地域活動	3	1	9	2
福祉	9	5	26	8
合計	33	23	69	25

生涯教育研修会参加者延べ人数

年度	参加者数
H28年度	3,278
H29年度	2,578
H30年度	1,869
2019年度	1,926
2020年度	0
2021年度	1,042
2022年度	1,013
2023年度	972
2024年度	996

(実務研修のみ)

退会者について

◆ 退会者の在年数内訳人数

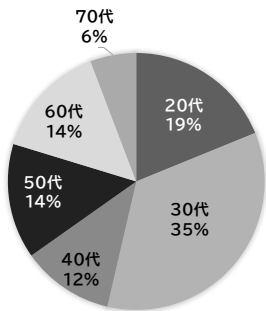
会員歴	退会者数
1～2年	8
3～5年	18
6年～10年	13
11年～20年	8
21年以上	22
合計	69

◆ 退会者の年代別内訳人数

年代	退会者数
20代	13
30代	24
40代	8
50代	10
60代	10
70代	4
80代	0
合計	69

◆ 退会理由

退会理由	人数
栄養士業務から離れている	2
退職	14
研修に参加不可、多忙	9
一身上の都合により	17
入会のメリットが感じられない	3
出産・育児・産休	5
会費が高い	6
病気療養、逝去、精神疲労	2
家庭の都合、介護など	10
高齢の為	1
合計	69



○日栄月次会員数報告（5月）より
年度別

2025年5月31日現在

総会員数	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比	2025年度 目 標	目 標 差	目 標 比
4月	1,215	1,149	1,101	1,073	1,042	999	-43	95.9%	-	-	-
5月	1,252	1,200	1,163	1,101	1,070	1,033	-37	96.5%	-	-	-
6月	1,283	1,214	1,187	1,138	1,099				1,220	-1,220	0.0%
7月	1,291	1,227	1,195	1,157	1,112				1,234	-1,234	0.0%
8月	1,293	1,238	1,204	1,161	1,116				1,240	-1,240	0.0%
9月	1,295	1,238	1,206	1,164	1,117				1,242	-1,242	0.0%
10月	1,295	1,242	1,213	1,166	1,122				1,246	-1,246	0.0%
11月	1,299	1,245	1,214	1,167	1,125				1,250	-1,250	0.0%
12月	1,299	1,254	1,215	1,168	1,125				1,252	-1,252	0.0%
1月	1,299	1,257	1,215	1,170	1,127				1,253	-1,253	0.0%
2月	1,299	1,257	1,215	1,170	1,127				1,252	-1,252	0.0%
3月	1,300	1,257	1,215	1,170	1,127				1,252	-1,252	0.0%
合 計	1,300	1,257	1,215	1,170	1,127	1,033	-94	88.3%	1,252	-1,246	82.5%

新 入 会	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4月	38	22	24	28	18	18	0	100.0%
5月	47	30	33	32	24	24	0	100.0%
6月	53	36	42	41	29			
7月	54	42	46	45	30			
8月	55	47	49	48	30			
9月	55	47	50	50	31			
10月	55	49	51	52	32			
11月	58	51	50	53	34			
12月	58	52	50	53	34			
1月	58	53	50	54	33			
2月	58	53	50	54	33			
3月	60	53	50	54	33			
合 計	60	53	50	54	33	24	-9	44.4%

再 入 会	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4月	10	13	4	9	11	2	-9	18.2%
5月	12	15	9	14	14	3	-11	21.4%
6月	13	17	9	15	15			
7月	13	17	9	16	20			
8月	14	17	9	16	21			
9月	15	17	9	16	21			
10月	15	18	10	16	22			
11月	15	19	10	16	22			
12月	15	19	10	16	22			
1月	15	19	10	17	23			
2月	15	19	10	17	23			
3月	13	19	10	17	23			
合 計	13	19	10	17	23	3	-20	17.6%

継 続	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4月	1,167	1,114	1,073	1,036	1,013	979	-34	94.5%
5月	1,193	1,155	1,121	1,055	1,032	1,006	-26	95.4%
6月	1,217	1,161	1,136	1,082	1,055			
7月	1,224	1,168	1,140	1,096	1,062			
8月	1,224	1,174	1,146	1,097	1,065			
9月	1,225	1,174	1,147	1,098	1,065			
10月	1,225	1,175	1,152	1,098	1,068			
11月	1,226	1,175	1,154	1,098	1,069			
12月	1,226	1,183	1,155	1,099	1,069			
1月	1,226	1,185	1,155	1,099	1,071			
2月	1,226	1,185	1,155	1,099	1,071			
3月	1,227	1,185	1,155	1,099	1,071			
合 計	1,227	1,185	1,155	1,099	1,071	1,006	-65	91.5%

○職域別

2025年5月31日現在

職 域	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4 月	366	348	338	324	323	312	-11	96.6%
5 月	371	361	349	330	332	318	-14	95.8%
6 月	379	363	357	336	338			
7 月	377	368	360	342	339			
8 月	378	372	360	343	339			
9 月	379	372	361	344	340			
10 月	379	371	363	346	341			
11 月	379	375	364	346	340			
12 月	379	376	363	347	341			
1 月	379	377	363	347	343			
2 月	379	378	362	347	344			
3 月	378	378	361	344	343			
合 計	378	378	361	344	343	318	-25	92.7%

勤 労 者 支 援	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4 月	19	13	15	12	13			
5 月	21	16	16	12	13			
6 月	21	16	16	13				
7 月	22	16	16	13				
8 月	22	16	16	13				
9 月	22	16	16	13				
10 月	23	17	16	13				
11 月	23	17	16	13				
12 月	23	18	16	13				
1 月	23	18	16	13				
2 月	23	18	16	13				
3 月	23	18	16	14				
合 計	23	18	16	14				

公 衆 衛 生	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4 月	127	118	108	120	125	121	-4	96.8%
5 月	130	122	119	125	128	125	-3	97.7%
6 月	133	123	123	128	131			
7 月	133	123	124	128	132			
8 月	133	123	126	129	133			
9 月	134	123	125	129	134			
10 月	133	124	125	131	135			
11 月	133	124	125	131	136			
12 月	132	125	125	131	135			
1 月	132	127	125	133	135			
2 月	132	127	126	133	135			
3 月	135	126	125	133	135			
合 計	135	126	125	133	135	125	-10	92.6%

福 祉	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4 月	290	281	273	259	245	233	-12	95.1%
5 月	300	296	289	266	251	241	-10	96.0%
6 月	313	303	295	279	261			
7 月	317	306	296	287	265			
8 月	318	311	300	287	268			
9 月	318	311	302	289	267			
10 月	318	314	304	288	268			
11 月	322	313	304	289	269			
12 月	322	317	306	289	268			
1 月	322	317	306	289	269			
2 月	322	316	306	289	268			
3 月	320	316	305	291	268			
合 計	320	316	305	291	268	241	-27	89.9%

学 校 課 康 教 育	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4 月	189	186	179	173	165	154	-11	93.3%
5 月	202	195	186	180	170	161	-9	94.7%
6 月	205	196	190	187	174			
7 月	208	199	191	190	175			
8 月	207	200	192	190	175			
9 月	207	200	193	190	175			
10 月	207	200	194	190	176			
11 月	207	200	194	190	176			
12 月	208	200	194	190	176			
1 月	208	200	194	190	177			
2 月	208	200	194	190	177			
3 月	206	200	195	189	177			
合 計	206	200	195	189	177	161	-16	91.0%

研 究 教 育	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4 月	59	54	50	47	46	48	2	104.3%
5 月	60	58	57	49	48	54	6	112.5%
6 月	63	59	57	50	50			
7 月	65	61	58	52	52			
8 月	65	61	59	54	52			
9 月	65	61	59	54	52			
10 月	65	61	60	54	52			
11 月	65	61	60	54	52			
12 月	65	62	60	54	52			
1 月	65	62	60	54	52			
2 月	65	62	59	54	52			
3 月	65	62	60	54	52			
合 計	65	62	60	54	52	54	2	103.8%

地 域 活 動	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4 月	165	149	138	138	125			
5 月	168	152	147	139	128			
6 月	169	154	149	145				
7 月	169	154	150	145				
8 月	170	155	151	145				
9 月	170	155	150	145				
10 月	170	155	151	144				
11 月	170	155	151	144				
12 月	170	156	151	144				
1 月	170	156	151	144				
2 月	170	156	152	144				
3 月	173	157	153	145				
合 計	173	157	153	145				

ア ー ト ス ぽ ー ー	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度差	前年度比
4 月						131	-	-
5 月						134	-	-
6 月					145			
7 月					149			
8 月					149			
9 月					149			
10 月					150			
11 月					152			
12 月					153			
1 月					151			
2 月					151			
3 月					152			
合 計					152	134	-18	88.2%

JDA-DAT スタッフ教育研修について

2025/7/8 現在

令和7年度 公益社団法人新潟県栄養士会JDA-DATスタッフ教育研修 実施計画書（案）

（公社）新潟県栄養士会

1 目的

「日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）」運営要綱に基づき、登録するJDA-DATスタッフの養成及び教育を実施するにあたり、スタッフの資質向上と実践力の定着化を目指して研修を実施する。

2 研修目標

（１）栄養アセスメント及びコミュニケーションスキル（180分）

最新の情報に基づく栄養アセスメント及びコミュニケーションのあり方を考える。

（２）臨機応変の対応能力、応急措置・救急（180分）

状況を把握及び対応能力の向上を図る。

3 受講対象者

（１）JDA-DATスタッフ

（２）JDA-DATリーダー（受講者）

（３）その他（執行部、理事）

4 日程・会場

令和7年11月9日（日）

9：20～16：30（6時間）

新潟ユニゾンプラザ（県営より確保済み）か長岡市内会場（8月1日時点で予約ができれば長岡で開催予定）

5 研修内容

日 程	講義名	内 容	備 考
9：20～9：30		開会あいさつ	
9：30～10：40	研修Ⅰ	講義：「非常食から災害食へー非常時の食に関わる5つの障害ー」JDA-DATとして押えておきたい災害時の食の捉え方（仮題） 講師：（一社）日本災害食学会 理事・副会長 新潟大学フードサイエンスセンターアドバイザー 別府 茂氏	
10：50～13：50 （昼食・休憩含む）	研修Ⅱ	演習：（公社）新潟県栄養士会災害時支援計画に関する訓練 災害対応アクションカードを用いた発災から本部立ち上げまでのシミュレーション体験 講師：（公社）新潟県栄養士会事業部・JDA-DATリーダー	
14：00～16：25	研修Ⅲ	講義・ワークショップ 「災害時の栄養・食生活支援活動の展開に向けた平常時から取り組む民間組織としての対応」（仮題） 講師：公益財団法人 味の素ファンデーション（TAF） マネージャー・防災士 原 裕樹 氏	
16:30	閉会		

勤者支援事業部と地域活動事業部の統合について

2026 年度総会をゴールに見据え、10 月理事会承認に向け、下記事項について検討を進める。

検討事項

- ✓ 統合の可否
- ✓ 統合の場合、どのような形で統合するか
- ✓ 定款の変更
- ✓ 実施要領（運用）作成 など

各業務執行部の経過報告

○広報・情報部：機関紙「栄養新潟」の今後の計画について

本年度費用（栄養新潟と合併号のためページの割合で算出）

郵送費：569,640 円

印刷代：100 円/冊

2026 年度以降の電子化に向け、下記検討が必要と思われるため、会員より google フォームのメール配信によりアンケートを実施し、実態把握・意見集約を行う予定。

検討事項

- ✓ ボリューム（ページ数含む）
- ✓ 一部電子化の可否
- ✓ 総会資料と合併の可否など

○研修部：栄養士研修会（栄養士大会）2025 について

開催日：11 月 1 日（土）

会場：新潟ユニゾンプラザ

* 時間割（案） * 赤文字部分について要検討・確認

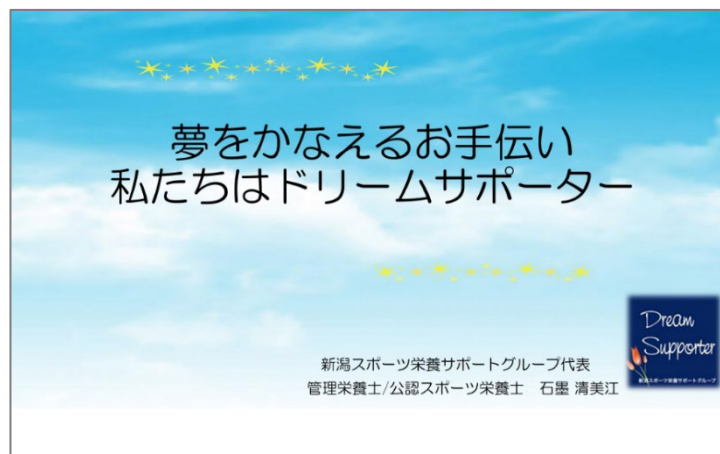
時間割	研修内容	担当 / 備考
	集合 会場設営 ポスター発表準備は会議室後方+研修室3	会場＝ユニゾン大会議室、研修室3 研修部6名、学術部3名ほどで足りる？
13：00～13：20	開場・受付/会場設営（20分）	PC接続（PCは講師持込？）、動作確認 司会：
13：20～13：25	開会あいさつ(5分)	斎藤トシ子会長
13：25～14：55	講演(90分) 「高血圧予防対策としての尿ナトカリ比 について（仮）」 質疑応答	講師：医療福祉大学 健康福祉学部 健康栄養学科 鈴木一恵先生 座長：
14：55～15：25 休憩（30分）	ポスター発表（30分） 会場①＝会議室後方：演者4組×各7分 会場②＝研修室3：演者4組×各7分	演者は、新潟県栄養士会員に限る 但し、院生以外の学生は不可
15：25～15：55	県からの情報提供(30分)	県の職員
15：55～16：25	JDA-DAT（30分）	講師：魚沼の会員予定 講師謝礼規定 確認
16：25～16：35	ポスター発表表彰式・写真撮影(10分)	表彰者3名
16：35～16：40	閉会あいさつ(5分)	村山稔子副会長
16：40～17：00	撤収（10分）	研修部、学術部
※時間割の確認 13：00開場、17：00鍵返却 会場用アンケート…紙アンケート必要？		

* 試算表 (7/15 修正)

項目	単価	数量 or 人数	集合型	備考
①新潟県委託料			137,000	
特別講演講師謝礼	20,000	1	20,000	
JDA-DAT 講師謝礼	5,000	1	5,000	
講師交通費	10,000	1	15,000	鈴木先生(長岡)、JDA-DAT 講師(魚沼)
講師お茶代	200	1	200	
大会議室使用料 88 名	29,350	1	29,350	Wボード 1 台、有線マイク、卓上マイク各 1 本込
小研修室 2 使用料 36 名	11,500	1	11,500	Wボード 1 台込
ワイヤレスマイク	1,070	3	3,210	
ポスター発表用 ホワイトボード	190	2	380	1 台で各 2 組ずつ使用、 各会場 2 台用意
スタッフ日当 (9 名+会長=10 名)	1,000	10	10,000	4Hr 以上として計上
スタッフ交通費 市内(22 円/Km)	500	7	3,500	スタッフ内訳
佐渡	7,000	1	7,000	研修部 6 名(副会長含む)
長岡	5,000	1	5,000	学術部 3 名
村上	3,000	1	3,000	会長(あいさつ)
			0	スタッフ計・・・10 名で足りる?
			0	①会場設営(PC 接続含む)・・・5 名
			0	②ポスター準備・・・2 名+演者
			0	③受付、アンケート回収・・・2 名
			0	④司会・・・1 名
			0	⑤講師接待(講師・県講師)・・・1 名
			0	⑥座長・・・1 名
			0	⑦マイク係・・・1~2 名
			0	⑧写真係・・・1~2 名
通信費(封書郵便)	110	100	11,000	アドレスなし会員向郵便物 (ハガキ代替可能?)
印刷製本費 (チラシ作成)	28	100	2,800	チラシ@18+案内@10(会長作成可能?)
消耗品(資料印刷代)	28.8	130	3,744	1 部@2.4×12 枚
賞状ホルダー一式 (3 名分)	3,905	1	3,905	別紙見積あり(ミヤザワ株)
参考:ハイグラフィ 賞状ホルダー	1,050		0	
100 均 賞状 3 枚入り	110	1	110	
②合計			134,699	委託料は使い切り。不足分は県栄負担
差額=①-②			2,301	
関係者 Web 会議 (研修・学術・事務局 計 13 名/回)	6,500	3	19,500	栄養士大会 2024 では 3 回実施

第4回北陸農政局食育活動表彰 北陸農政局長賞受賞者について

新潟スポーツ栄養サポートグループ 代表 石墨 清美江氏



(前列左から：郡局次長、S-N For all children、新潟スポーツ栄養サポートグループ、遠藤局長、日の出屋製菓産業株式会社、石川県漁業協同組合、園田局次長)



意見交換会の様子

○北陸農政局ホームページ参照

https://www.maff.go.jp/hokuriku/safe/shokuiku/hokuriku_hyousyo.html



こどものいばしょ応援プロジェクト第7回助成
～夢のいばしょをつくろう！～
募集について

2025年5月

こどものいばしょ応援プロジェクト事務局

【はじめに】

「こどものいばしょづくりは未来づくり」を合言葉に、2021年秋にスタートした「こどものいばしょ応援プロジェクト」(運営:新潟日報社・BSN・FM-NIIGATA)は4年目を迎えました。県内の子ども食堂の活動を県民に伝えるWEB、新聞紙面、テレビ、ラジオでの広報啓発活動のほか、セミナーの開催、募金活動などを行ってまいりました。過去6回の助成では、累計168団体に助成を行いました。今回7回目の助成は下記要綱で実施いたします。こどものいばしょづくりに本助成を活用いただけると幸いです。

多くみなさまからのご応募をお待ちしています。

記

1 助成対象

新潟県内でこどものいばしょづくりを目的に活動している・活動予定の団体

2 事業実施対象期間

2025年7月1日～2026年3月31日

3 助成内容

1団体10万円を限度に助成します。(経費が限度額を超える場合は各団体でご負担ください)

4 使途内容

特に指定はありません。(食材費、人件費、事務費、交通費、通信費等も含めます。)

5 申込方法

下記URLまたは右記二次元バーコードよりご応募ください。

<https://form.run/@niigata-nippo-5WONw-kodomonoibasyo-josei-7>

申込締切日 令和7年6月4日(水) 17:00 必着



※申請フォームは途中保存ができません。予め、申請内容を別ファイルに保存したうえでの申請をおすすめします。

※助成申請金額は、1万円単位での申請をお願いします。1万円単位となっていない場合には、切り捨ての金額で受理する場合があります。

※予算の計算が明らかに誤っている申請、申請金額と予算金額が異なっている団体は、選考の対象とならない場合があります。必ず、申請前に、最終の確認を行ってください。

※過去にこどものいばしょ応援プロジェクトの助成実績があり、完了した事業の報告書をご提出いただいていない場合、助成の対象外となります。(第6回を除く)ご注意ください。

※助成金の使途はこどものいばしょの運営に限ります。事業実施の際は他事業等とは区別してください
※振込先の口座登録に間違いがあり、振り込みできないケースが複数見られます。口座名義人、支店番号、支店名、口座番号等は間違えないよう申請をお願いします。
※ご応募いただいた団体情報は、助成金審査に使用するほか、こどものいばしょ応援プロジェクトに関する各種連絡に使用いたします。

5 スケジュール(予定)

5月9日(金)募集開始
6月4日(水)17:00応募締切
6月中旬 審査会 助成団体決定
6月27日(金)～ 採択結果通知 審査結果をメールで通知
7月上旬～必要書類確認後順次振込予定

6 決定等

助成決定は、応募団体宛メールで通知します。
採択団体からは、助成金受領における誓約書をご提出いただきます。
助成金は、誓約書を確認次第(2025年7月上旬を予定)振り込みます。振込をスムーズに遡るため、申請時に予め振込先口座の登録をお願いします。
※振込先の口座登録に間違いがあり、振り込みできないケースが複数見られます。口座名義人、支店番号、支店名、口座番号等は間違えないよう申請をお願いします。
※助成決定団体には、活動終了後報告書をご提出いただきます。過去にこどものいばしょ応援プロジェクトの助成実績があり、完了した事業の報告書をご提出いただいていない場合、助成の対象外となります。(第6回を除く)ご注意ください。
※活動実態が確認できなかった場合は、助成決定を取り消し、助成金の返還を求める場合があります。
※こどものいばしょ応援プロジェクトで助成事業活動報告会の開催を予定しているほか、各広報媒体にて活動報告を予定しております。活動の取材や発表にご協力をお願いします。

7 選考基準

実施内容、実施状況等を斟酌の上、総合的に判断します。
幅広いこどものいばしょに助成するため、代表者が複数の団体を運営している場合や、過去の助成回数なども判断材料とさせていただく場合があります。
選考過程や個別の審査内容に関するお問合せには応じかねますので、ご了承ください。

8 本事業全般に関する問合せ先

こどものいばしょ応援プロジェクト事務局(新潟日報社総合プロデュー室内)新
潟市中央区万代3-1-1
025-385-7473(土、日、祝日を除く)
ibasyo@niigata-nippo.co.jp

こどものいばしょ応援 プロジェクト

第7回助成
～夢のいばしょをつくらう～
申請フォーム

こどものいばしょ応援プロジェクト(新潟日报社・BSN・FM-NIIGATA)が新潟県内の
子ども食堂に対する第7回助成を開始します。

本助成は・2024年10月～2025年3月31日までに「こどものいばしょ応援プロジェクト」に寄せら
れた個人・法人の皆様から のご寄付を原資に・県内子ども食堂の活動を
応援するために実施します。

事業実施対象期間
2025年7月1日～2026年3月31日

下記フォームに必要事項をご入力いただきご応募く ださい
多くのみなさまからのご応募をお待ちしています。

申込締切: 令和7年6月4日(水) 17:00

応募のポイント

* 助成金を活用して取り組みたいこと・かなえたいこと * 400 字程度

⇒健康むらかみによりますと、令和5年度村上氏の児童の肥満の割合は 18.6%と高く、その原因
として朝食欠食率が 3.2%等、生活面での乱れが一因と考えられています。この課題を改善させる
ために昨年度より、新潟県栄養士会村上支部として子ども食堂を開催し、食事の提供と共に食育
の実施を開始しました。

(Ⅲ) Ⅱの実現に必要なとされる予算について・具体的にご記入く ださい・

例: 配食用弁当容器 @500円×30人×20回=300,000円・ボランティア保険 150
円×10人×20回=30,000円・会場使用料 2,000円×20回=40,000円・学習支援教材
10,000円・遊び提供のための材料費 1,000円×20回

合計400,000円

実現に必要なとされる予算

※上記例を参考に、具体的にご記入く ださい

食材費 60人×550円×2回=66,000円
使い捨て食器類 5000円×2回=10,000円
消耗品費(洗剤・アルコール等) 3000円×2回=6,000円
印刷費 2,000円×2回=4,000円

そのうち・この助成金を活用する事業をご記入く ださい

食材費 60人×550円×2回=66,000円
使い捨て食器類 5000円×2回=10,000円
消耗品費(洗剤・アルコール等) 3000円×2回=6,000円
印刷費 2,000円×2回=4,000円

**特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 2025 年度
ツルハグループ・こども食堂ゆたかさ基金 2025 年度夏期助成**

1. 申請団体について

運営団体名	公益社団法人新潟県栄養士会
こども食堂名	えいようしのこども食堂
団体所在地	〒 951-8052 新潟県新潟市中央区下大川前通 4 ノ町 2230 番地 エスカイア大川前プラザ 108 号
団体電話番号	025-224-5966
団体メールアドレス	
代表者名	斎藤 トシ子
担当者名	北林 紘
担当者メールアドレス	

2. こども食堂等の活動について

こども食堂の所在地・開催地	えいようしのこども食堂
直近のこども食堂等の開催日	2024/08/20
直近 1 年間の活動の形態、実施回数	会食 1 回 その他、他団体が実施しているこども食堂に 2 カ月に 1 回程度ボランティアで参加)
直近 1 年間の利用者数	会食=1 回 70 人 団体【ふくちゃカフェ】が実施するこども食堂へのボランティア 1 回 30 人)
こども食堂の活動が確認できる SNS、Web サイトの有無	自団体／こども食堂の SNS／Web サイトがある、他団体の Web ページに掲載されている

Web サイト・SNS の URL①	http://eiyou-niigata.jp/activity/branch/murakami/
Web サイト・SNS の URL②	https://hukutya-cafe.amebaownd.com/posts/56437219
画像の撮影日①(画像を提出する団体は記入)	
画像の撮影日②(画像を提出する団体は記入)	

3. 本助成金の使途(活動内容)

1. 実施したい活動	いつ：2025年7月または8月中（夏休み期間） 誰が：新潟県栄養士会村上支部会員 6人 誰に：対象人数 児童 30名×2回 何を：昼食会と食育 なぜ：村上市では児童の肥満率 18.0%であり、新潟県 12.1%、全国 12.5%と比較して高率です。その原因として、朝食の欠食や生活リズムの乱れによる朝食の欠食、また、お菓子の摂取量が多いことが挙げられています。これらの原因は夏休み中に特に悪化すると考えられるため、児童に食育を兼ねたこども食堂を実施したいと考えています。 どのようにして：夏休み期間に学童に通う児童を対象に、行政、栄養士会村上支部会員、ボランティアが共同して実施します。昼食は野菜を多く用いた献立を提供します。食育は早寝早起きして朝食をとることの大切さやお菓子の食べ過ぎに注意を促す内容を実施したいと考えています。
2. 本助成金を活用する理由、期待する効果	村上地域には、ツルハドラッグが3店舗あり、住民になじみのある企業からの助成金であるため本助成金に応募いたしました。 経費の面では、公益社団法人新潟県栄養士会の活動費は主に会費で運営されていますが、会員数の減少等により収入が減少していること、また、食材費の値上げによりこども食堂にかかる経費の増加により、栄養士会としての支出が難しいことがあり、助成金を申請させていただきました。 本助成金により、肥満や生活リズムの改善を達成し、子供たちの健全な発育を促す効果が期待できると考えられます。
3. 対象期間外の活動を含まないことの確認	本助成金を使って実施したい活動内容に、対象期間外の活動を記載していないことを確認しました。

4. 本助成金の使途(費目と内容)

使用する費目	食品費、消耗品費
「食品費」の内容	米、野菜、肉類、果物、調味料、飲料（30人分×2回）
「消耗品費」の内容	使い捨て食器、消毒、ガスコンロ用ガス
「保険料」の内容	
「会場使用料」の内容	
「備品費」の内容	

5. 確認事項、プライバシーポリシーへの同意

項目1	本助成事業の対象期間、スケジュール、助成対象費目を確認しました。
項目2	本助成事業の【応募要件】を満たしていることを確認しました。
項目3	本助成事業の【助成金受領の条件】を確認しました。
項目4	むすびえの個人情報保護方針 (https://musubie.org/privacy/) に同意します。
項目5	本助成の申請書および報告書に記載した内容を、ツルハグループへ共有することに同意します。

1. 2025 年度事業計画

赤フォント：会員益につながる事業？と思われるもの

公 1 食・栄養の 科学振興事 業	1 食・栄養の科学振興事業 1-1 業務分野ごとの専門性の向上に関する調査研究 1-2 国庫補助などによる事業 1-3 管理栄養士・栄養士の業務規範の策定 1-4 国への栄養政策の提言活動
	2 食と栄養の科学に関する調査・研究・技術開発事業 2-1 栄養の指導に関する文献検索システム利用・活用の促進と論文作成の支援 2-2 栄養の指導に関する研究助成及び育英資金の支援事業 2-3 食と栄養の実践科学の振興に資する書籍などの刊行物の監修等 2-4 政策にかかわるデータベースの構築
公 2 食・栄養改 善人材育成 事業	1 生涯教育制度の基幹教育にかかると運営事業 1-1 基幹教育研修事業 1-2 認定管理栄養士・認定栄養士制度事業 1-3 管理栄養士・栄養士への職業倫理普及事業 1-4 全国栄養士大会開催事業 1-5 管理栄養士・栄養士の養成教育支援事業（在学生向け資料作成 HP 掲載等）
	2 拡充教育 2-1 管理栄養士・栄養士の特定（専門）種類業務における専門知識・技能の強化事業 2-2 栄養サポートチーム担当者研修会 2-3 栄養ケアマネジメントに関する研修会 2-4 地域リーダー育成・都道府県栄養士会の公益目的事業支援事業 2-5 職域別研修事業 2-6 関連団体等との協働研修・研修支援事業 2-7 職域別の学習・教育用教材及び資料の政策事業
公 3 食生活自律 支援事業	1 個別特性対応型の食の自律支援事業 1-1 栄養ケア・ステーション事業 1-2 非常災害時の被災者の健康支援事業
	2 集団対応型の食の自律支援事業（栄養改善・健康づくりに関する国民的合意を形成する事業） 2-1 国民の食生活・栄養に関する支援事業（健康づくり提唱の集い、栄養の日、栄養週間など）
	3 健康づくりと食事・栄養に関する情報コミュニケーション事業 3-1 日本栄養士会雑誌の発行事業 3-2 ホームページによる情報コミュニケーション事業 3-3 栄養指導・栄養相談用のパンフレット、リーフレットの資料制作配布事業
公 4 食環境整備 事業	1 連携・協働関係の構築事業 1-1 プライマリ・ヘルス・ケアのネットワーク形成
	2 先駆的栄養改善活動等表彰事業
	3 国民の健全な食生活を支援する制度の整備 3-1 管理栄養士・栄養士の業務過誤による損害賠償責任保険制度の取扱い事業 3-2 管理栄養士・栄養士制度の運用改善、制度改革に関する包括的な検討事業
公 5 国際公 衆衛生向上 事業	1 開発途上国の公衆衛生・公衆栄養上の課題に関する支援事業
	2 国際栄養士連盟・アジア栄養士連盟の活動にかかると国際交流事業
	3 国際交流助成事業
その他（法 人運営に関 する事業	1 会務運営に関する取組み等（総会、理事会の適切な運営、事業部・事務局体制の整備、各種委員会の運営など）
	2 会員に関する取組み等（会員専用 HP の充実、会員活動の活性化に向けた活動、業務支援システムの円滑な運用、保守管理）
	3 その他必要な取組

2. 2025 年度(重点事項)

- 1) 会員増対策の強化
- 2) 生涯教育の推進
- 3) 日本栄養士会災害支援チーム (JDA-DAT) の人材育成・体制整備の推進
- 4) 日本の栄養改善の成果 (Japan Nutrition) をアジア栄養士フォーラム 2025 をとして世界に発信、栄養サミット実現に向けた国際活動 (ラオス栄養改善プロジェクト) の展開
- 5) 令和 8 年度診療報酬改定に向けた要望の提案

3. 特別講演 (厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課栄養指導室長 塩澤信良氏)

テーマ：国の栄養政策の動向について

(話の中で、印象に残ったキーワード)

- 1) 食事摂取基準の活用について：数値が重要なのではなく、なぜその数値が基準になっているかの背景を知る (本文を熟読する) が重要。 医師、看護師が使い始めている、管理栄養士・栄養士は他職種以上に理解を深めることが必要)
- 2) 経営や事業で大切なのは、「インサイド・アウト」ではなく「アウトサイド・イン」の発想。

「インサイド・アウト」：内から外の発想 (自分たちのもっている技術等からサービスを考える発想) だと、目的や目標、周辺の環境や相手の存在が忘れ去られがちになる。

ある意味、押し売り、相手には何も響かない。

「アウトサイド・イン」：外から内の思考では、今ある技術等は一旦横に置き、目的・目標を軸に考えることで、制限なく、柔軟かつ戦略的に考えることにつながる。相手の考えを知ることで、サービスを柔軟に考えることができる

- 3) 栄養の政策や取り組みを推進には、時に保健医療等以外の領域を含め、様々な関係者と連携が必要。 そのためには、相手の立場に立ったアウトサイド・インの思考が有効 (厚生労働省、機関投資家・金融機関、職能団体、市民社会、学術、事業者等と連携)

4. 協議事項

管理栄養士・栄養士倫理綱領～見直しの視点～

■今、なぜ、倫理綱領の見直しを進めているか。

- 管理栄養士・栄養士の業務の本質が読み込める内容になっているか？
- 医療職性との関係はどうか？ (医療職性は全職域共通)

例：食物アレルギー (医療、福祉、学校、行政、地域、給食などすべての職域に関わる)

- 倫理綱領は、管理栄養士・栄養士を中心に、関係職種に理解いただける内容にすべきか？

- 管理栄養士・栄養士の職能 (栄養の指導)

栄養の指導・・・栄養管理、給食管理、栄養食事指導が包括されている

「栄養士法 第一条」・・・栄養士とは、・・・栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいう

*「専門職としての役割と倫理綱領」日栄養生涯教育基本研修、4 月～オンライン配信

(中村会長と早野監事の対談動画) →**理事の皆様は、是非ご視聴願います！！** 約 60 分

中村会長：責務の一つに倫理がある。倫理違反 (嘘など) は、人を不幸にする

早野監事：栄養士の倫理は、幸せをつくるものであるべき ←自分を律し信用に応える

5. 日栄 2025 年度事業について 各県からの質問・要望など

1) 他県では栄養 CS について会員への周知をどうしているか？

→総会時に説明、相談されたことは断らない、種まきをして芽がでるまでに 10 年はかかる

2) 会員増対策について、どのようなことを考えているのか

→会員増対策委員会で調査

22-23 歳入会者多い、20 代後半退会者多い

→若年層に魅力ある会の検討 ← 若者へのグループインタビュー予定（入会理由など）

→地区会長会議で各都道府県の取組みを確認→効果的な県の方法を共有予定

3) 各職域の会員獲得の目標値はどのようにして算出しているのか？

→各職域の会員数の割合、月次報告の数値などを基に算出している

4) 会員増に向け、各職域でどのような活動をしているか？

→2024 年：各職域事業推進でグループワークを実施

→各職域でビデオ会議システム《VCS（Video Communication Server）》を活用し、
会員間でグループワークを実施

（入職 2～3 年目に入会勧める、チラシ配布、好事例を職域間で共有）

5) 河村育英資金の年齢をアップしていただけないか？

現在、応募条件が 40 歳以下となっているが、最近は 40 歳以上の進学者が増えている。

→来年度あたりで、資金なくなるため、今後の支援制度の継続が難しい

年齢制限のない、国（文科省等）の補助金などを活用してほしい

6) 万博、未来に残すべき和食を会員に周知できないか？

→会員への周知は検討している。

日本栄養士会雑誌 7 月号；万博内容 PR、8 月号：特集号にする

特設サイトにもアップする

*現在、イワサキさんが各県の料理をフードモデルにしている、予想以上に素晴らしく仕上がっている。

イワサキさんが、各県へのお礼として、1 セット多く作り、各県にお配りする予定

7) 保育所等への栄養士配置要望はどうなっているのか？

必置要望をしていくべきである

→ワーキンググループを作り、実態把握をした上で、次年度展開予定

8) 総会の議案書を早めに送付してほしい。

熟読し検討するためにも、4 週間前には送ってほしい

→理事会承認後等になるので、今以上に早めることはむずかしい。

9) 県栄の予算がひっ迫している。会費の値上げをすると会員減につながるので、日栄の会費も

値上げをしないよう検討していただきたい。

10) 給食経営管理の持続可能性が難しくなっている。日栄としてどのような対策を考えているか？

→日栄と医師会との連携により、検討を進めていきたい

11) 倫理綱領は日栄の HP には掲載されているが、総会資料に入っていないのはなぜか。

HP を見る会員は少ない。会員にみてもらう方法を工夫してほしい。

現状	問題点	改善（案）
入金が遅れた ・なるべく早めにとだけで期限がなかった ・手数料を考え、全部一斉に振り込んでいた ・振込をしてエラーがでて、わかるという状態だった ・エラーの確認連絡をとるのが遅れた	今までの方法で行い、見直しができなかった。 担当だけで考え、事務局内での検討ができていなかった	・入金の期限を決める（4/30 迄） ・入金前にお知らせをする ・入金の方法を見直す
遅れについて、連絡がなかった ・問い合わせに対しての回答のみだった	事務局での情報共有が不足し、対応していなかった	問題の共有をはかり、必要な連絡を行うようにしていく
エラーの方 （名前が違う、口座がない、口座が違う、銀行支店がない） ・エラーの方に連絡するも返事がない、電話がつながらないがあった ・あまり電話すると、「もういいらない」と言われたことがあり、躊躇してしまった	担当者のみで対応し、問題をかかえてしまっていた	・口座があるかの確認を、年度の途中でも行っていく ・連絡などは、担当者以外にも協力していく